第１部　津和野町歴史文化基本構想

第１章　津和野町の文化財の総合的な把握

第１節　調査の手法と事業実施の流れ

１　調査の手法と実施

津和野町では、これまで史跡津和野城跡および津和野城下町遺跡、名勝の旧堀氏庭園、さらには鷺舞神事を中心とした民俗文化財、天然記念物の樟や神社の社叢などを中心として、行政主導で文化財保護行政を行ってきた。

こうした取組の成果と課題を踏まえながら、本事業では住民や専門家等の協力と参加を得ながら、次のような７つの手法によって、文化財の総合的な調査を行った。

【手法１】町担当者による基礎情報のデータ化…全類型

【手法２】文化財（文化的な“資源・宝”）に関するアンケート調査…全類型

【手法３】地元調査員による所在確認と調査カード作成…全類型

【手法４】全公民館でのワークショップと補足聞き取り…全類型

【手法５】町担当者による確認調査・実測調査…史跡、記念物、埋蔵、文化的景観

【手法６】専門家による確認調査・実測調査…建造物、伝建地区、記念物、民俗関係

【手法７】専門家・業者による悉皆調査・測量調査…建築（社寺悉皆、登録有形など）

このうち、地元調査員による調査では、対象を町内全域に広げ、旧村単位に調査員を配置し住民自らが調査に関わることによって文化財の理解を深めるとともに、地域の特性を見出すことに努めた。調査員には事前に文化財についての説明を行うとともに、これまでに取り組みの少なかった文化財類型にも配慮し、全分類において広くテーマが設定できるよう努めた。第１次調査に引き続き、群や区域のテーマに基づいた第２次調査を実施した。

全住民を対象にしたアンケート調査では、自宅における宝、地域における宝、津和野全域における宝について住民の意識を調査し、地域の特性の参考とすることとした。また、社寺についても文化財の所有調査や盗難被害の実態等についても調査を行った。

これらの調査結果から、関連文化財群においては中世山城や街道、鉱山やたたら場などが町内全域に広がっておりそれぞれが相互にかかわり合っていること、保存活用区域については城や信仰の対象となった山、樹木など、それぞれ核となる文化財を中心として生活が営まれ、文化財が今もなお地域の宝として大切に継承されていることが明らかになった。

特に、これまで津和野町では取り組みのなかった建造物調査（重要文化財や社寺悉皆調査、伝統的建造物群の絞り込み）、さらには高津川を中心とした文化的景観について、おおよその方向性を見出すことができたと考えている。

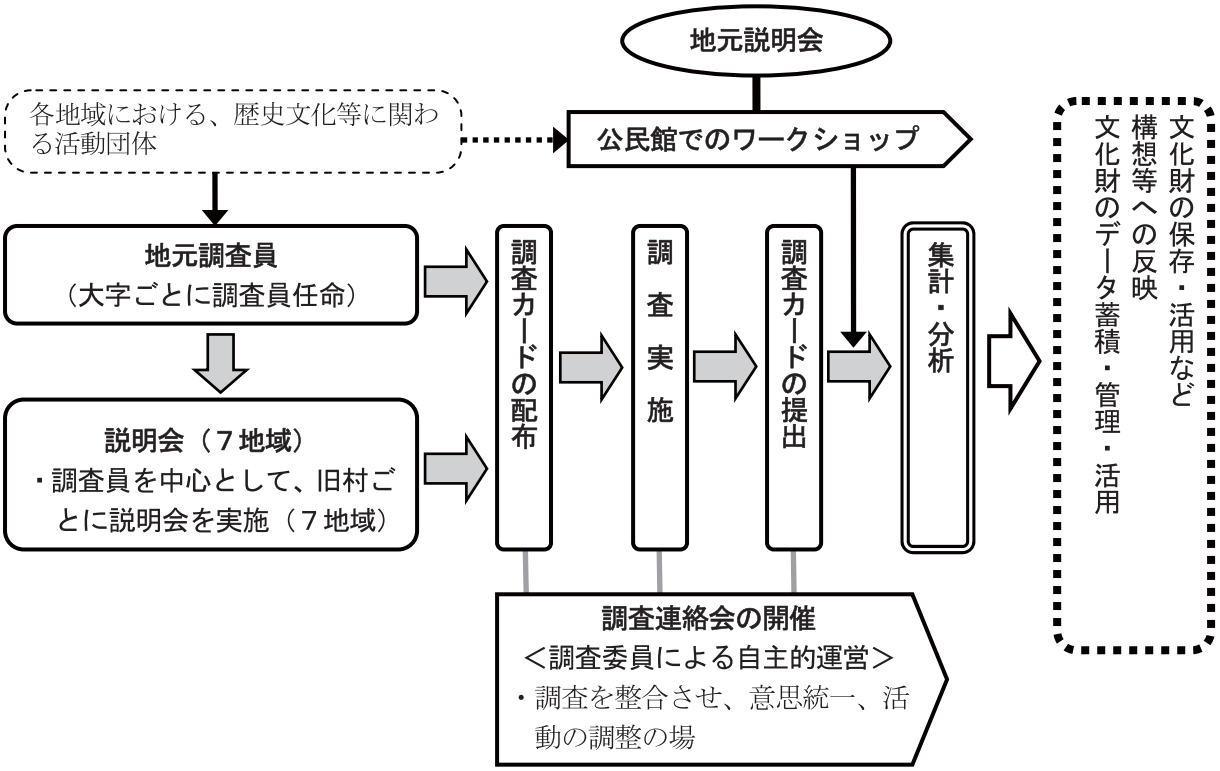


図 1-1-1　住民参加の調査の流



ワークショップ（左鐙公民館）



ワークショップ（青原公民館）

２　業務の実績の概要

（１）　平成20年度の業務の実績

①　歴史文化基本構想策定委員会と運営委員会について

モデル事業における委員会については、基本方針や関連文化財群、保存活用区域の設定等について検討する学識経験者らによる「歴史文化基本構想策定委員会」と、文化財の実態調査等に協力し、かつ町民を中心として基本構想を検討する「歴史文化基本構想運営委員会」の二本立てとした。これは、事業の着手にあたり担当係レベルにおいて、学識経験者や地域の特定の代表者だけが関わる計画策定が地域住民の意識とかけ離れた結果になることを危惧し、住民が本事業の目的である文化財の総合的な把握のための調査に積極的にかかわり、自由な発想で計画策定にもかかわるために特に大切であると考えたからである。この委員会のありかたについては、教育委員会内において一本化できないかとの意見もあったが、文化財調査に重点を置くとともに、策定委員に文化財だけの学識経験者だけでなく、文学や美術などの文化面における学識経験者も参加することとして了承を得た。



策定委員会



運営委員会

○歴史文化基本構想策定委員会及び運営委員会を、それぞれ２回開催した。

○大字ごとに配置した調査員による文化財調査員連絡会を２回開催した（調査に関わる周知・指導及び調査員相互の交流と調査に関する意見交換・調整など）。

②　各種文化財調査等について

各種文化財調査等は以下のように実施した。

○民俗調査指導：日時　平成21年1月30日（金）、指導者　湯川洋司、坪郷英彦

○建造物調査指導：日時　平成21年2月9日（月）、指導者　矢ヶ崎善太郎

○建造物調査：日時　平成21年3月3日（火）～4日（水）、指導者　矢ヶ崎善太郎、調査補助員２名

○史跡調査：日時　平成21年2月25日（水）、指導者　北垣聰一郎　調査補助員２名

○庭園調査：日時　平成21年2月15日（日）～16日（月）、指導者　仲隆裕

○古文書調査指導：日時　平成21年3月23日（月）～24日（月）、指導者　小林准士　調査補助員２名

○埋蔵文化財調査指導：日時　平成21年3月26日（木）、指導者　椿真治、守岡正司

③　住民説明会について

平成20年度の住民説明会は、７つの地区（日原、津和野、木部、畑迫、小川、喜時雨、河村）で、それぞれ１回行った。

④　広報活動について

○　広報「つわの」２月号でモデル事業について採択された旨、事業の内容、調査事業に対する協力依頼を行った。

○　１月～３月において町内のケーブルテレビを利用してモデル事業の内容、調査事業に対する協力依頼を行った。

○　地域別調査における調査員が、調査を行う上で所有者等に事業の内容を説明するための趣旨説明や文化財の類型について記載したちらしを作成した。

（２）　平成21年度の業務の実績

①　歴史文化基本構想策定委員会と運営委員会について

モデル事業における歴史文化基本構想の策定にあたっては、平成20年度に引き続き基本方針や関連文化財群、保存活用区域の設定等について検討する学識経験者らによる「歴史文化基本構想策定委員会」と、文化財の総合的調査等に協力するとともに、歴史文化基本構想の基礎的な検討を行う「歴史文化基本構想運営委員会」の二本立てとし実施した。

○歴史文化基本構想策定委員会及び運営委員会を、それぞれ２回（第３回、第４回）開催した。このうち第３回は、両委員会の合同委員会とした。

○文化財調査員連絡会を６回開催した。

②　各種文化財調査等について

各種文化財調査等は以下のように実施した。

ア　建造物調査

○町内社寺建築調査：期間　平成21年７月９日（木）～平成22年３月25日（木）、委託先　奈良文化財研究所

○伝統的建造物群保存対象地区の選定：日時　平成21年９月14日（月）、指導者　矢ヶ崎善太郎（京都工芸繊維大学）

○永明寺測量調査：日時　平成22年３月３日（火）～４日（水）、指導者　矢ヶ崎善太郎（京都工芸繊維大学）ほか補助員３名

イ　民俗現地調査および調査指導

○町内現地確認調査：日時　平成21年５月29日（金）、指導者　湯川洋司（山口大学教授）、坪郷英彦（山口大学教授）

○民俗調査実習の受け入れ：日時　平成21年９月８日（火）～11日（金）、指導者　湯川洋司（山口大学教授）、坪郷英彦（山口大学教授）ほか８名

○仏像等調査指導：日時　平成21年８月７日、指導者　椋木賢治（島根県芸術文化センター主任学芸委員）

ウ　古文書調査

○近代行政文書確認調査：日時　平成21年12月７日（月）、指導者　小林准士（島根大学准教授）

○堀氏文書調査：日時　平成21年７月９日（木）～10日（金）、平成21年10月20日（火）～21日（水）、指導者　仲野義文（石見銀山世界遺産センター）ほか

エ　史跡調査および調査指導

○津和野城下町遺跡調査指導：日時　平成21年５月21日（木）～22日（金）、指導者　水之江和同（文化庁記念物課）

○亀井家墓所調査指導：日時　平成21年７月６日（月）～７日（火）、指導者　白石太一郎

○石造物の石材調査：日時　平成21年８月17日（月）～18日（火）、指導者　奥田尚

○亀井家墓所石造物測量調査：日時　平成22年３月７日（日）～12日（金）、指導者　内田大輔（奈

良大学）その他５名

オ　庭園測量調査

○商家庭園測量調査：日時　平成21年７月１日（水）、実施者　津和野町教育委員会

カ　埋蔵文化財調査

○笹ヶ谷銅山現地調査：日時　平成21年10月20日（火）、指導者　椿真治（島根県教育庁文化財課世界遺産室）、守岡正司（石見銀山世界遺産センター）

○石見瓦調査：日時　平成21年４月22日（水）～23日（木）、平成22年３月１日（月）～２日（火）、指導者　熱田貴保（島根県文化財課）

○津和野城下町遺跡と周辺遺跡の総合的検討：期間　通年、実施者　津和野町教育委員会

③　アンケート調査の実施

○文化財に関する町民アンケート調査：期間　平成21年６月９日（火）～８月31日（月）

○社寺における美術工芸品のアンケート調査：期間　平成22年１月８日（金）～平成22年１月31日（水）

④　ワークショップの開催

住民による津和野町の文化財（地域の文化的な“資源・宝”）の再発見とともに、その特色や相互のつながりなどを検討する。

○日時：平成21(2009)年９月28日(月)

○テーマ：つわのの自然・生業・文化～石見人としての足跡をさぐる～

⑤　研修会の開催

○「津和野の社寺建築について」：日時　平成22年３月20日（土）、講師　島田敏男氏（奈良文化財研究所）

⑥　住民説明会

地域ごとの説明会（小川、日原、畑迫、津和野の４地区で各２回）及び学校研修会（鹿足郡社会科部会研修会：１回）において説明会を実施した。





つわのの自然・生業・文化～石見人としての足跡をさぐる～（ワークショップ）

（３） 平成22年度の業務の実績

①歴史文化基本構想策定委員会と運営委員会について

平成21年度に引き続き、歴史文化基本構想について検討する学識経験者らによる「歴史文化基本構想策定委員会」と、文化財の調査及び歴史文化基本構想や保存活用の基礎的な検討を行う町民を主体とした「歴史文化基本構想運営委員会」の二本立てとし実施した。

○歴史文化基本構想策定委員会については、２回（第５回、第６回）、歴史文化基本構想運営委員会は４回（第５回、第６回、第７回、第８回）開催した。

○文化財調査連絡会は５回開催した。

②各種文化財調査について

ア　建造物調査

○太皷谷稲成神社元宮神社、半峰亭調査　平成22年8月5～7日、指導者　矢ケ崎善太郎（京都工芸繊維大学）ほか調査補助員８名

○登録有形文化財群調査指導　平成22年12月9日、指導者　矢ケ崎善太郎(京都工芸繊維大学)

イ美術工芸品

○仏像調査（永明寺、大定院、興海寺）　平成23年1月28～31日　調査員　松元章徳（奈良大学大学院）ほか２名

ウ　史跡

○藩主亀井家墓所石造物調査　平成22年4月26～30日　指導者　内田大輔（奈良大学職員）ほか調査補助員３名

エ　文化的景観調査

○石見瓦歴史調査　平成22年5月13～14日、8月9～11日、10月19～20日、3月10～11日　調査員　熱田貴保（島根県文化財課）

③シンポジウムの開催

○テーマ　「津和野の「歴史遺産」の魅力とその活用～高津川と城下町、そして」石見人が」培った遺産を引き継ぎ、生かす～」

日時：平成22年11月21日（日）13:30～16:30

場所：津和野町民センター

○記念講演：「文化財総合的把握モデル事業について」

文化庁伝統文化課文化財保護調整室長　森　政之

○基調講演：「津和野の歴史文化の特色と魅力、そして未来」

武蔵野美術大学名誉教授　長谷川　堯

○パネルディスカッション

コーディネーター：松島　弘

パネリスト：北垣聰一郎、山崎一穎、湯川洋司、矢ケ崎善太郎、小林准士

参加者　約90名

④住民説明会とワークショップの開催

○地元説明会

公民館長・分館長主事会議：平成22年6月23日

商工会観光協会事業説明会：平成22年8月24日

山陰ネットワーク会議：平成22年11月22日

○ワークショップ

左鐙地区：平成22年8月3日

畑迫地区：平成22年7月13日、平成22年8月31日
青原地区：平成22年9月21日
津和野橋南地区：平成22年9月22日
津和野橋北地区：平成22年9月27日
日原地区：平成22年10月8日
小川地区：平成22年10月18日
木部地区：平成22年12月3日

⑤学校出前授業

○津和野小学校　郷土学習「津和野城と城下町」について６回にわたり授業を開催。「私たちの残したい津和野マップ」作製。

○津和野高校　　「津和野城と城下町」について２回にわたり講義。

⑥伝統文化活性化協議会の立ち上げ協力

○文化庁委託事業「地域伝統文化活性化事業」（H22～24）の立ち上げによる協力





シンポジウム～津和野の「歴史遺産」の魅力とその活用～

第２節　文化財に関する住民意識

１　調査の概要

（１）　調査の目的

津和野町には、国の重要文化財をはじめ数多くの指定された文化財がある。

また、指定されてはいないが、文化的に貴重な建造物や伝統行事、伝統的な技術・技能、衣食住や産業等に関わる風俗習慣、川や里山等の景観、動植物などが数多く地域に息づいていると考えられる。

こうした地域の文化的な“資源・宝（文化財）”について、地域に暮らす住民から情報提供を得るとともに、その保存・活用についての意見などを把握するため、全世帯を対象にアンケート調査を実施する。

この調査などをもとに、津和野町の文化財を総合的に把握し、保存・活用について検討し、一歩一歩、具体的に取り組んでいくものである。

（２）　調査の方法

①　アンケート調査方式

○　原則、無記名のアンケート調査方式

○　ただし、差し支えのない範囲で「世帯主の氏名」を記述する欄を設定（文化財について、教育委員会から問い合わせをすることが可能なように配慮）

②　調査対象者

○　津和野町の全世帯（１票／世帯）：16歳以上の世帯員

③　アンケート調査票の配布・回収の方法

○　配布：各地区の嘱託を通じて各戸配布

○　回収：郵便

④　調査期間

○　平成21(2009)年６月９日(火)～８月31日(月)

（３）　調査票の配布・回収の状況

調査票の配布・回収の状況は、以下のとおりである。

表1-1-1　アンケート調査票の配布・回収の状況

地　区	配布数（票）…A	回収数（票）…B	回収率(%)…B／A
津和野	1,340	117	8.7
小　川	337	24	7.1
畑　迫	307	34	11.1
木　部	289	26	9.0
日　原	900	113	12.6
須　川	90	10	11.1
左　鐙	124	14	11.3
青　原	357	31	8.7
不　明	－	4	－
合　計	3,744	373	10.0

2　調査結果

（1）　基本的属性

①　性別

回答者の性別は、男性が66.5％と全体のほぼ２／３を占めている。

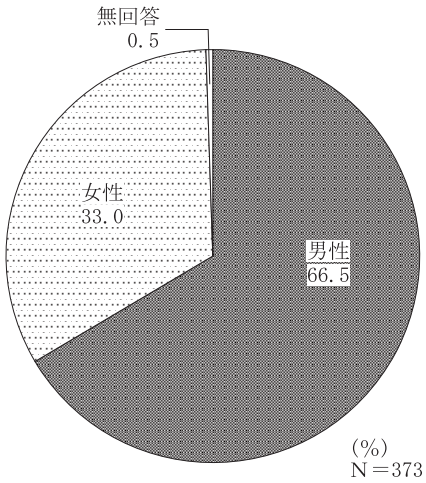


図1-1-2　性別

②　年齢階層

回答者の年齢階層は、「70～79歳」が27.5％で最も多く、次いで「60～69歳」が25.2％となり、これに「80歳以上」（17.2％）を加えると、全体の約７割（69.9％）が60歳以上となっている。

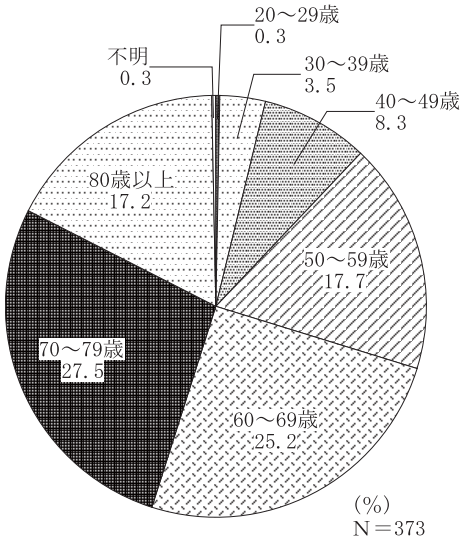


図1-1-3　年齢階層

③　居住地区

回答者の居住地区は、津和野地区が31.3％、日原地区が30.3％で、この両者で全体の６割以上を占める。

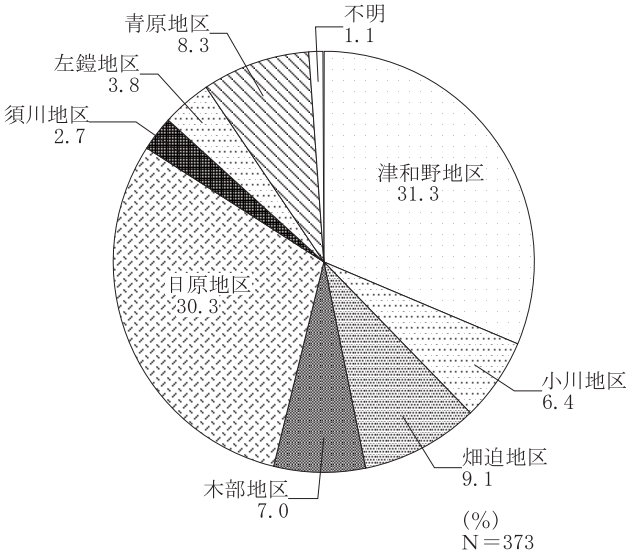


図1-1-4　居住地区

（２）　地域にある文化的な“資源・宝”について

①　自宅にある地域の文化的な資源・宝、技術・技能など

問　あなたのご自宅に、地域の文化的な“資源・宝”と思われるものがありますか、または、そうした技術・技能などをお持ちの方がいらっしゃいますか。
※１位～３位の記入

ア　津和野町全体での概要

自宅にある文化的な資源・宝について、文化財の類型を踏まえながら整理すると、全体（第１位～第３位）での概要は以下のようになる。

○　全体では、108 件（回答数、重複した文化財あり）の文化的な資源・宝があげられている。

○　回答件数の構成比（第１位～第３位の合計）は、「有形文化財（美術工芸品）」が 66.6%（72 件）で最も多く、次いで「有形文化財（建造物）」10.2%（11 件）、「無形民俗文化財」9.3%（10 件）などとなっている。

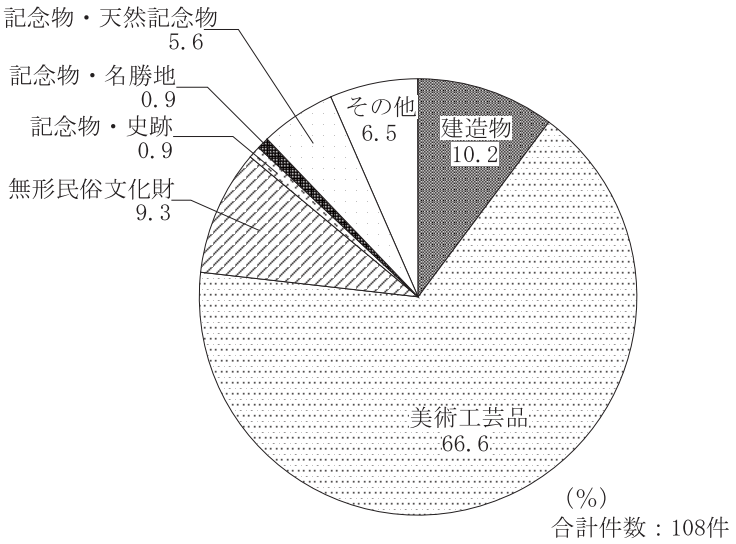


図1-1-5　回答件数の構成比（第１位～第３位の合計）

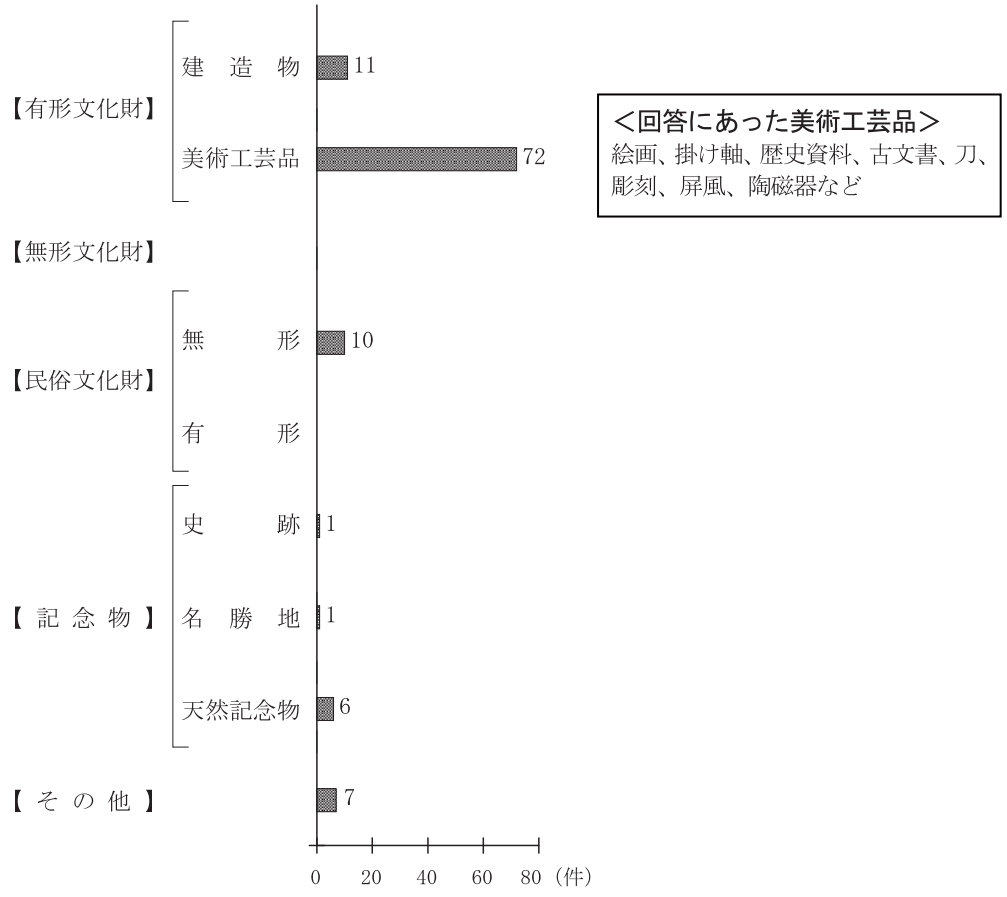


図1-1-6　回答者の自宅にある、地域の文化的な資源・宝、技術・技能など第１位～第３位までの合計件数

イ　地区別の回答件数と内容

○　地区別でみると、日原地区が 39 件で最も多く、次いで津和野地区 32 件となり、この両者で全体の約２／３（65.7%）を占める。また、内容は美術工芸品が中心である。

○　この他、左鐙地区で 11 件、木部地区 10 件など、各地区で地域の文化的な資源・宝があげられている。

表1-1-2　回答者の自宅にある、地域の文化的な資源・宝（第１～３位合計）

区分（地区）	合計	有形文化財		無形文化財	民俗文化財		記念物			その他
		建造物	美術工芸品		無形民俗文化財	有形民俗文化財	記念物・史跡	記念物・名勝地	記念物・天然記念物	
津和野町全体	108	11	72	－	10	－	1	1	6	6
津和野地区	32	2	24	－	1	－	1	－	2	2
小川地区	1	－	1	－	－	－	－	－	－	－
畑迫地区	6	－	6	－	－	－	－	－	－	－
木部地区	10	1	7	－	0	－	－	－	－	2
日原地区	39	5	25	－	3	－	－	-1	4	1
須川地区	3	1	2	－	－	－	－	－	－	－
左鐙地区	11	2	1	－	6	－	－	－	－	1
青原地区	6	－	6	－	－	－	－	－	－	－

＜文化的な資源・宝の主な内容（第１～３位合計：津和野町全体）＞

建　　造　　物：建物、一の谷にある旧住居、天保 13 年建築の主屋、築 100 年あまりの住宅、三好家の長屋など

美術・工芸品：絵画(8)、掛け軸(8)、古文書(6)、刀(2)、彫刻、ルオーの銅版画、木彫りの面、屏風、津和野藩大目付教条、唐人焼、喜多流謡曲本、津田薩摩守定次の鏡など

無形民俗文化財：そば打ち(2)、食文化(2)、炭焼き、農林水産等の技術、養蜂技術など

記　　念　　物：石碑、庭園、樹木(楠)、モリアオガエル、門かぶりの松、キンラン・チゴユリ等山草類など

そ　　の　　他：江戸中期の石垣と言われる棚田、古老の話、写真（笹ヶ谷鉱山・昭和 13 年頃、昭和 49 年～53 年、工事終了時）など

※自宅以外の資源と明らかなものは除外した

②　居住地区にある地域の文化的な資源・宝、技術・技能など

ア　津和野町全体での概要

問　あなたのお住まいの地区（ご自宅以外）において、地域の文化的な“資源・宝”と思われるものや伝統行事、技術・技能、衣食住に関する風俗習慣などを、下記の欄に５つまでご記入下さい。

居住地区にある文化的な資源・宝について、文化財の類型を踏まえながら整理すると、全体での概要は以下のようになる。

○　全体では、461 件（回答数、重複した文化財あり）の文化的な資源・宝があげられている。

○　「無形民俗文化財」が 26.2%（121 件）、「有形文化財（建造物）」が 18.9%（87 件）で、上位１・２番となっている。

○　次いで、各「記念物」も相対的に多くあげられている。また、記念物全体（史跡、名勝、天然記念物）では 34.9%（161 件）に達する。

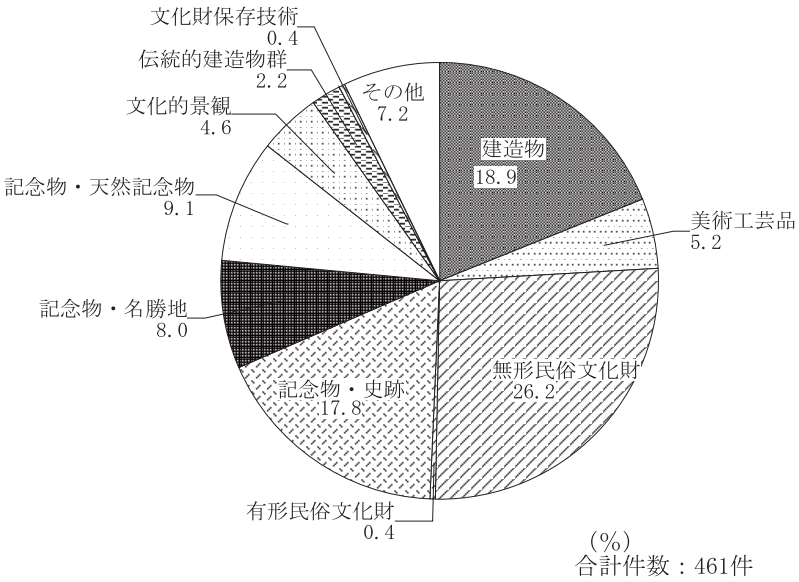


図1-1-7　回答件数の構成比

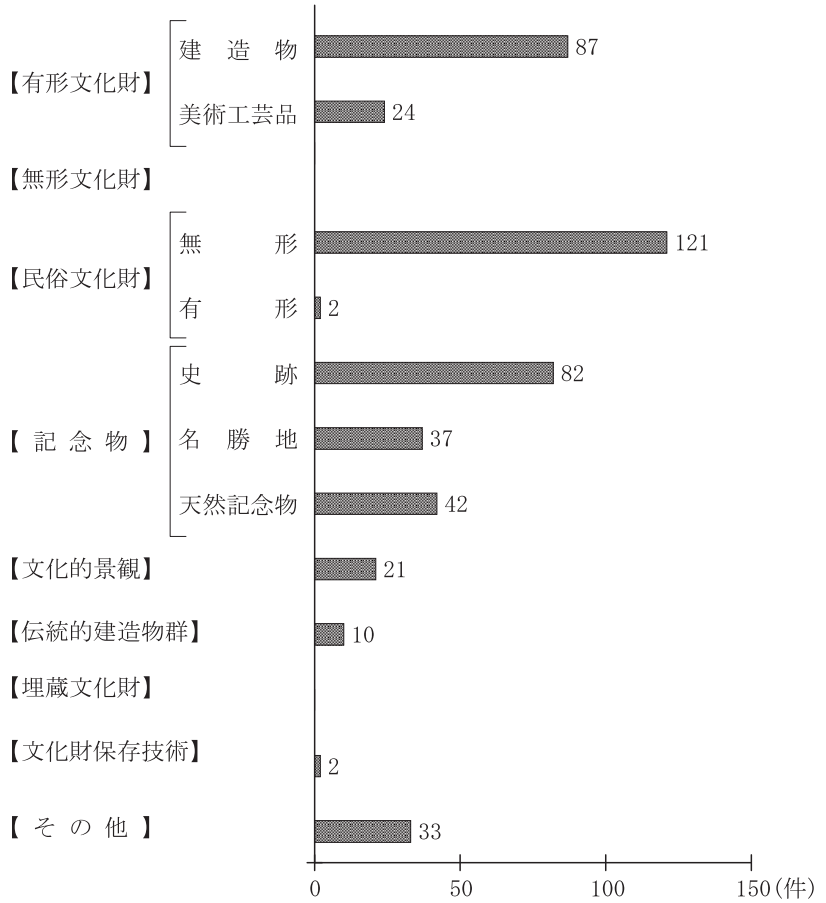


図1-1-8　居住地区にある、地域の文化的な資源・宝、技術・技能など（複数回答）

イ　地区別の内容

居住地区にある文化的な資源・宝について、あげられた件数を地区別でみると、津和野地区が188件、日原地区が96件で、この両者で全体（461件）の６割を超える（61.6%）。また、木部、青原も50件近くあげられている。

文化財の類型を踏まえながら内容をみると、「民俗文化財（無形民俗文化財）」が121件、「有形文化財（建造物）」が87件、「記念物（史跡）」が82件と上位を占める。

また、あげられている文化的な資源・宝の主な内容は下記のようになる。

表1-1-3　回答者の居住地区における、地域の文化的な資源・宝など（複数回答）

区分（地区）	合計	有形文化財		無形文化財	民俗文化財		記念物			文化的景観	伝統的建造物群	埋蔵文化財	文化財保存技術	その他
		建造物	美術・工芸品		無形民俗文化財	有形民俗文化財	記念・史跡	記念物・名勝地	記念物・天然記念物					
津和野町全体	461	87	24	0	121	2	82	37	42	21	10	0	2	33
津和野地区	188	45	5	－	46	1	37	8	18	8	9	－	－	11
小川地区	24	4	1	－	6	－	1	4	4	2	－	－	－	2
畑迫地区	30	6	4	－	8	－	1	3	2	4	－	－	－	2
木部地区	48	10	5	－	5	－	17	2	2	－	－	－	－	7
日原地区	96	15	6	－	23	－	16	10	14	3	－	－	1	8
須川地区	4	－	1	－	1	－	－	1	－	－	－	－	－	1
左鐙地区	23	5	－	－	8	－	－	5	1	4	－	－	－	－
青原地区	48	2	2	－	24	1	10	4	1	1	－	－	1	2

＜文化的な資源・宝の主な内容（津和野町全体）＞

建　　造　　物：鷲原八幡宮、三渡八幡宮、鳴滝神社、財間酒造の酒蔵、市川家住宅、馬場先櫓、杜塾美術館、麹屋さん、旧森田家など
美術・工芸品：黒杭五輪堂、門林神社前の灯籠、汗かき地蔵、唐木地地蔵、高平山観音など
無形民俗文化財：鷺舞、流鏑馬神事、宅神祭、奴道中、神楽、芽輪神事、ヨイヤナー盆踊りなど
記念物・史跡：鷲原公園、鷲原公園の流鏑馬馬場、城跡、徳城往還、旧日原共存病院跡の石垣、丸山公園、お旅所など
記念物・名勝地：堀庭園、古川公園(旧川園)、丸山、鳴滝周辺、雄滝雌滝、高津川など
記念物・天然記念物：津和野神社の桜、カブトエビ、中山八幡宮の大杉、大元神社跡の樟など
文化的景観：四季折々の景色、水路、地倉大権社を中心とする地倉沼周辺の景観など
伝統的建造物群：殿町通りの景観（掘割）
そ　　の　　他：天文台、郷土のくどき屋号調べ、地区名称など

③　津和野町にある地域の文化的な資源・宝、技術・技能など

問　あなたは、津和野町全体での地域の文化的な“資源・宝”として、特にあげられたいものは何ですか。上位５つまでを記してください。ご自宅や住んでいる地区であげられたものでも、よろしいです。

ア　津和野町全体での概要

津和野町にある文化的な資源・宝のうち、特にあげたいものについて、文化財の類型を踏まえながら整理すると、全体での概要は以下のようになる。

○　全体では、738 件（回答数、重複した文化財あり）の文化的な資源・宝があげられている。

○　回答件数の構成比としては、「記念物（史跡）」が 26.0%(192 件)が最も多く、次いで「民俗文化財（無形）」18.2%(134 件)、「有形文化財（建造物）」16.9%(125 件)などとなっている。

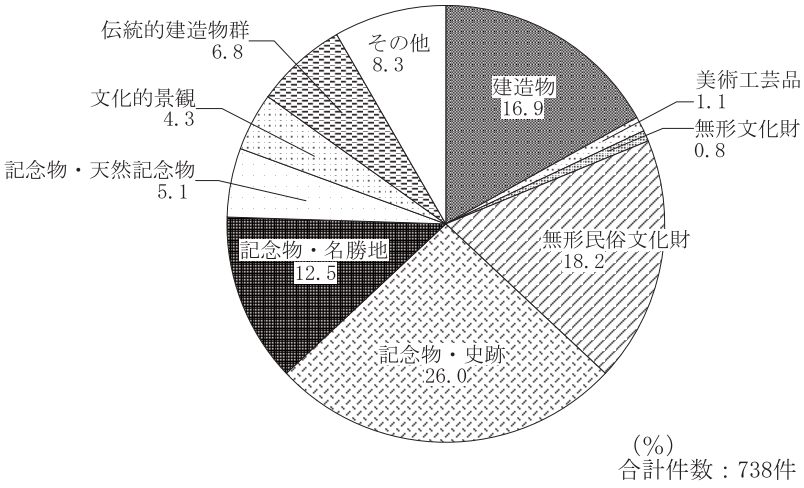


図1-1-9　回答件数の構成比

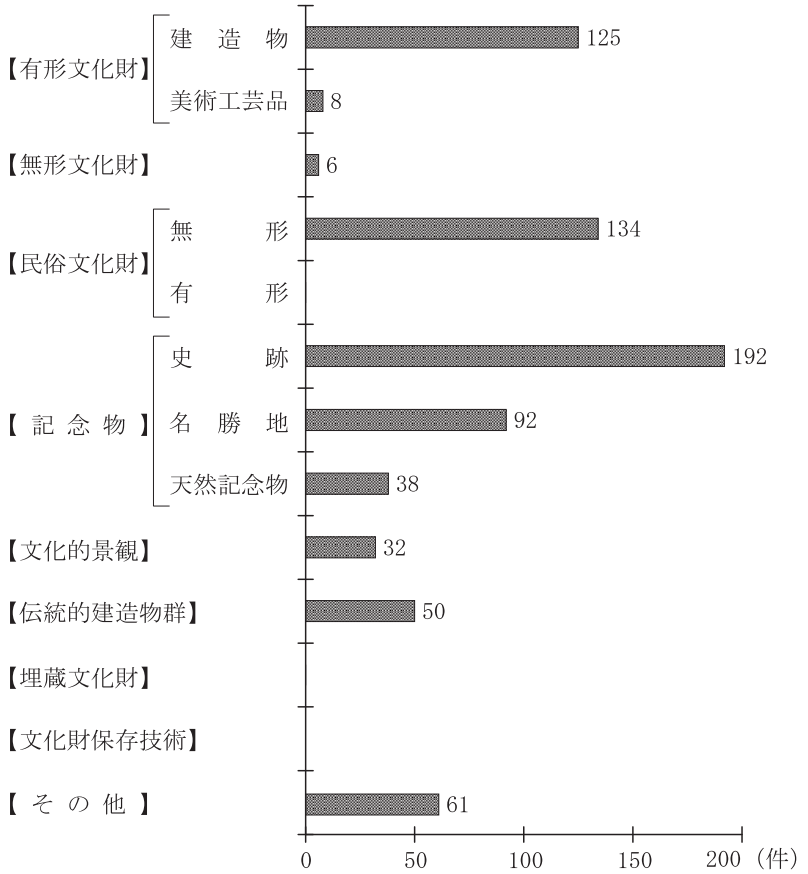


図1-1-10　津和野町にある、地域の文化的な資源・宝
第１位～第５位までの合計件数

イ　地区別の回答件数と内容

○　地区別でみると、津和野地区が 325 件で最も多く、全体の 44.0%を占め、内容は記念物(史跡)、建造物が上位を占める。なお、記念物（史跡）の中心は津和野城跡である。

○　次いで、日原地区で 160 件、畑迫地区で 69 件、青原地区で 62 件などとなっている。

表1-1-4　津和野町全体での文化的な資源・宝（第１～５位合計）

区分（地区）	合計	有形文化財		無形文化財	民俗文化財		記念物			文化的景観	伝統的建造物群	埋蔵文化財	文化財保存技術	その他
		建造物	美術・工芸品		無形民俗文化財	有形民俗文化財	記念物・史跡	記念物・名勝地	記念物・天然記念物					
津和野町全体	738	125	8	6	134	0	192	92	38	32	50	0	0	61
津和野地区	325	70	6	1	55	－	94	23	12	20	26	－	－	18
小川地区	39	5	1	－	9	－	14	4	2	－	4	－	－	－
畑迫地区	69	13	1	1	12	－	24	10	－	2	3	－	－	3
木部地区	52	9	－	－	9	－	16	3	2	1	3	－	－	9
日原地区	160	17	－	1	29	－	25	40	16	5	11	－	－	16
須川地区	7	1	－	－	－	－	－	1	3	－	1	－	－	1
左鐙地区	19	3	－	1	6	－	1	2	1	2	－	－	－	3
青原地区	62	7	－	1	15	－	15	8	2	2	1	－	－	11

＜文化的な資源・宝の主な内容（第１～５位合計：津和野町全体）＞

建　　造　　物：太皷谷稲成神社(35)、永明寺(26)、鷲原八幡宮(18)、弥栄神社(6)、藩校養老館(3)、乙女峠マリア堂(2)、家老門(2)、津和野庁舎など

美術・工芸品：免鑑(1860年当時の免許)、愈宋札の画帳、観音様、天球儀・地球儀など

無形文化財：和紙づくり(5)、炭焼きなど

無形民俗文化財：鷺舞(42)、流鏑馬神事(28)、神楽(13)、奴道中(10)、乙女峠まつり(4)など

記念物・史跡：津和野城跡(81)、森鷗外旧居・記念館(27)、乙女峠(18)、西周旧居(10)、鷲原公園(9)、流鏑馬馬場(6)、下瀬山城跡(6)、笹ヶ谷銅山坑道(4)、徳城往還(3)など

記念物・名勝地：高津川(27)、堀庭園(23)、安蔵寺山(13)、青野山(11)、高峯の白糸の滝など

記念物・天然記念物：鯉(5)、ホタル(5)、堤田の樟(5)、安蔵寺山のブナ林(3)、鷲原の一本杉(2)、永太院の桜、三渡神社の社叢とイチイガシ、風穴洞、地倉沼など

文化的景観：水路(11)、棚田(6)、里山の景観・環境(3)、旧津和野町内に発生する雲海(2)、堤田農村景観、津和野の四季など

伝統的建造物群：殿町通りの街並み・景観(49)、赤瓦と白壁など

そ　　の　　他：天文台(15)、安野美術館(6)、ＳＬ山口号(3)、星空(3)、森鷗外(3)など

（３） 地域にある文化的な“資源・宝”と、暮らしやまちづくりについて

① 地域の文化的な資源・宝がもたらす効果や役割

問　あなたは、地域の文化的な“資源・宝”がもたらす効果や役割を、どのようにお考えですか。
（○印はあてはまるものすべて）

地域の文化的な資源・宝がもたらす効果や役割については、「誇り、愛着」が198件（総件数1,167に対する割合…右頁上の図：17.0％）と最も多く、次いで、「地域イメージや魅力の向上」が162件（同：13.9％）となっている。

また、「親戚・知人等のもてなし（楽しみ、案内）」が148件（同：12.7％）、「産業の維持・活性化」が137件（同：11.7％）と上位（３位・４位）を占めている。

この他、「散策や健康づくり」、「学校教育や生涯学習の充実」、「暮らしにおける精神的な充実」が、100件前後でつづいている。

地区別でみても、ほぼ全体の傾向と類似している。

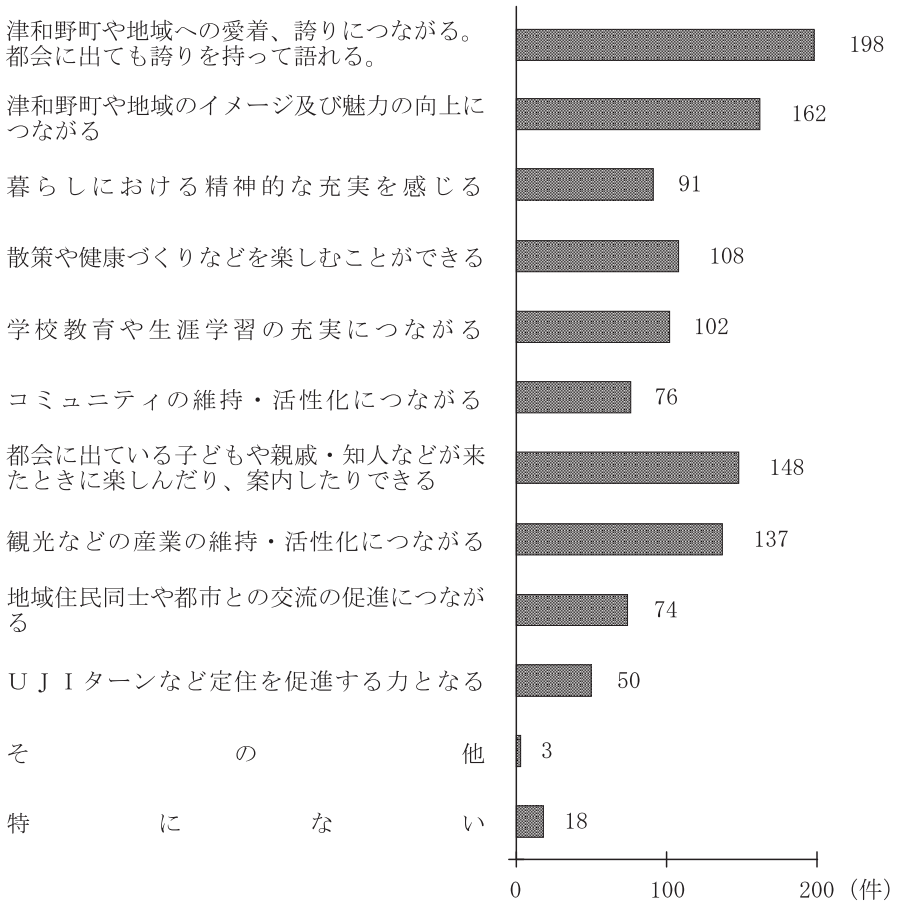


図1-1-11　地域の文化的な資源・宝がもたらす効果や役割（複数回答）

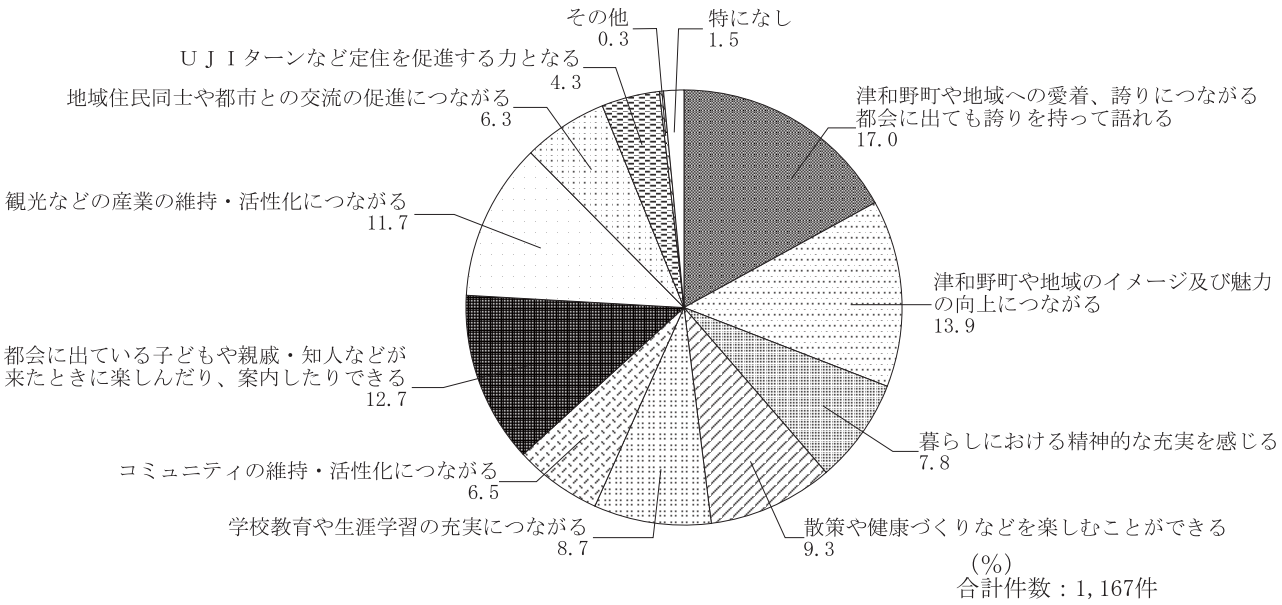


図1-1-12　回答件数の構成比

表1-1-5　地域の文化的な資源・宝がもたらす効果や役割（複数回答）

区分（地区）	合計	津和野町や地域への愛着、誇り	津和野町や地域のイメージ及び魅力の向上	暮らしにおける精神的な充実感	散策や健康づくりなどを楽しむことができる	学校教育や生涯学習の充実につながる	コミュニティの維持・活性化につながる	都会に出ている子どもや親戚などが来たときに楽しめる	観光などの産業の維持・活性化	地域住民同士や都市との交流の促進	ＵＪＩターンなど定住を促進する力	その他	特になし
津和野町全体	1,167	198	162	91	108	102	76	148	137	74	50	3	18
津和野地区	451	82	63	30	45	40	25	63	58	25	13	1	6
小川地区	76	13	15	4	7	7	4	9	11	3	3	－	－
畑迫地区	87	13	15	7	7	4	5	12	14	4	4	1	1
木部地区	93	17	8	9	9	12	5	12	8	8	4	－	1
日原地区	299	45	41	25	27	26	22	32	33	24	17	1	6
須川地区	21	2	2	3	3	2	2	3	2	1	1	－	－
左鎧地区	41	7	5	5	3	4	3	5	2	3	2	－	2
青原地区	98	19	12	8	7	7	10	12	9	6	6	－	2

※数字は件数、全体には「地区不明」（1件）を含む

②　文化財を守り・活かすテーマ

> **問　津和野町は、「山陰の小京都」「日本一の清流」などのイメージがありますが、これ以外に地域の文化的な“資源・宝”を守り、活かしたテーマなどが考えられるでしょうか。お考えがありましたら、３つまであげてください。**

文化財を守り・活かすテーマとしては、197件（テーマ１：107、テーマ２：56、テーマ３：34）の意見が寄せられて、それらを大分類・中分類に整理して、意見（要約）をまとめたものが下表である。

このうち、大分類では「まちづくりの方向性」に関する意見が64件（テーマ１～３、以下同様）、「歴史文化」に関する意見が55件、「自然・緑・生き物・景観」に関する意見が51件と、上位を占めている。

これをさらに分類（中分類）すると、「まちづくりの方向性」における「教育と思想・文化」に関する意見が13件と最も多くなっている。

表1-1-6　文化財を守り・活かすテーマ（１／３）

区　分		テーマ１		テーマ２		テーマ３	
大分類	中分類	内容	件数	内容	件数	内容	件数
まちづくりの方向性	教育と思想・文化	養老館と教育・思想、文化と教育の町：２、教育と思想のまち、教育と人づくりの町、日本の近代を支えた教育と思想のまち：４、新しい教育の町、日本の近代を支えた教育	11	教育の町として中高一貫教育	1	多くの人材生んだ教育の町	1
	ふるさと、田舎	日本（にっぽん）のふるさと、日本の田舎、ここのふる里２、山あいの小さな町	5	田舎の特色を生かし都会の真似をしない	1		
	心、精神	人情の町、ゆたかな心、黙考に浸れる町、旅人を温かく包み込む津和野町	4	ゆたかな思いやり、おもいやり	2	母性を感じさせるやさしい町	1
	歴史・文化・伝統	伝統と新しいものとの同居が大切、歴史文化の宝庫、訪れ町の古都、新しくつくるのではなく今の津和野の宝をどう守って次世代にわたすには	4	歴史と伝統の町、今も歴史が生きてる町、津和野藩からの歴史の重み	3	歴史が蘇える街津和野、地域の文化的な資源・宝を活用し都会との交流事業を促進	2
	小京都	山陰の小京都、小京都の里山	2			霧の中の小京都	1
	反・小京都	「山陰の小京都」から「日本の小京都」へ、小京都ではなく津和野は津和野	2				
	自然、四季	自然豊な町	1	四季を感じる町（盆地の雪景色は秀逸）	1	自然を生かす、山と水と朝霧の中で	2
	天領・鉱山	天領と鉱山と産業文化２、天領の街津和野	3	天領と鉱山と産業文化	1		
	街道・道	西からの山陰一の入口	1	街道文化のまほろば	1	山々につつまれた津和野路	1
	安全・安心、福祉	お年寄りが元気な町～高齢化社会に備えて、明るい町づくり	2	安心できる町	1		
	その他	山陰のイメージチェンジ（山陰を山光としたら山の陰でなくして山の光）、のんびりできる町	2	スローダウンな時の流れと小気味良い風が通る町、シルクの里（織物だけでなく絹を食材やサプリ化粧品などに広く応用させて）	2		
		リメンバーTuwano	1	ここまでが津和野	1		
		汽笛が響くＳＬのまち	1	清き永の町津和野	1		
				信仰の源流、乙女峠	1		
				日本に残しておきたい町	1		
小計：64			39		17		8

表1-1-6　文化財を守り・活かすテーマ（２／３）

区　分		テーマ１		テーマ２		テーマ３	
大分類	中分類	内容	件数	内容	件数	内容	件数
歴史文化	人物	西周・他の文化人、人、出進名士各位、養老館から輩出された偉人と明治維新・政府に貢献した人々の宣伝	4				
		奉仕者の存在	1				
	城跡	津和野城跡	1	三本松城跡	1	下瀬山城跡	1
		中世の津和野（城跡中心）	1	城山、改修できれば城建物	2	城下町	1
	街道・みち	山陰道（徳城往還道を含む）	1			旧街道野坂峠や徳城峠越えをもっと世に出そう	1
		鷲原八幡宮から鷲原1本杉の山道の整備	1				
	街並み・景観	古き街並みの散策	1			津和野らしい街の整備、つわぶきの里、のの飾如き（？）	3
		景観を守れる地域	1	広告看板のない町に	1		
	建造物、庭園、遺跡	堀家の周囲、特に中堀の手入れ	1	役場前石畳	1	建物（酒蔵、寺、民家など古い建物）	1
		鷲原公園流鏑馬馬場	1			養老館といえば観光津和野の宝、ところが南側は空白の一部屋、有効対処を考えては	1
		公園、庭園の町（堀庭園、嘉楽園、鷲原公園、亀井庭園、城跡等をしっかり整備、管理して巡ってもらう）	2				
		石見銀山と笹ヶ谷銅山との関連	1	笹ヶ谷鉱山へ行く道の整備	1		
	神社仏閣			三渡八幡宮	1		
	伝統行事	伝統的な行事、伝統行事、過去の遺産があるからこそできる伝統行事	3	伝統文化と行事、伝統行事（芸能）、伝統行事の脈うつ町	3		
		四季折々の伝統行事、四季の伝統行事	2	四季折々の伝統行事	1	四季折々の伝統行事と生活文化２	2
		四季折々の伝統行事と生活文化２	2	伝統行事由来を再考する	1		
		石見神楽	1	石見神楽	1		
				鷺舞神事の町	1	鷺舞	1
				鷺舞など昔のものばかりに頼らず、古きを生かしながら現代人にアピールするものを作りだすべき	1		
	伝統技術・生活文化・暮らし	素朴な暮らし、里山でつつましくもいきいきとくらす人々	2	伝統技術の発掘（例、つわの言葉の継承学究会）	1		
		貴重な生産技術の継承	1	伝統技術とものづくり（最近希少価値の出ているシルク関連）	1		
小計：55			27		17		11
農林水産業、特産品、食	森林・林業	津和野町内の山に蓄えられた木材資源活用	1				
	農業			中山間地で農法人数が多いのでは	1		
	ワサビ、産地			ワサビ、新しい（珍しい）農産物の産地づくり	1		
	鮎料理	鮎料理の開発	1				
	四季折々の食	四季折々の自然と食文化（自然観察と山菜、アユ、カニ、イノシシ、スッポン等料理）	1				
	酒					地酒と合った食べ物探求	1
小計：6			3		2		1

表1-1-6　文化財を守り・活かすテーマ（３／３）

区　分		テーマ１		テーマ２		テーマ３	
大分類	中分類	内容	件数	内容	件数	内容	件数
自然・緑・生き物・景観	星、星空	星空、星がきれいにみられる、日原天文台の活性化と有効活用、手に届く星空	4	天の川が映える小京都	1	ホタルのとぶ町	1
	ホタルなど	ホタルやモリアオガエル多くいて住んで体験もできる美しい農村風景（畑迫、木部）（地倉、木曽野）	1	ほたる、蛍祭	2	自然と星空を抱ける町	1
	川	清流日本一２、高津川	3	カヌー教室、川下りの立ち上げ	2		
		錦川をきれいにし昔の様に河鹿が鳴き蛍が飛び川蝉がいる様にしたい	1				
	アユなどの魚	あゆ、鮎の日原	2	小さな谷川の遊魚	1	小川から河に接続する部分を小魚がそじょうできる構造に	1
	鳥					ゴイサギ（川魚）	1
	自然景観	四季折々の景観に恵まれた日本の原風景	1			自然の中での自己を見つめる	1
	森林など	大いなる大自然（森林等）	1				
	安蔵寺山	安蔵寺山、安蔵寺山を西日本の山として位置づけ（子供から老人まで楽しむ山である）、安蔵寺山一帯の自然	3			（秀峰青野山、）豪峰安蔵寺山へもっと登る	1
	青野山など	母なる青野、父なる城山（取り巻く兄弟の山）、青野山の昔の姿	3	青野山３	3	秀峰青野山（、豪峰安蔵寺山）へもっと登る	1
	樹木	小野の緑、一本杉、タブの樹、ケヤキ、桜並木、大楠木２、町内１番の桜並木	8				
	植樹	個人1人から始まる桜を1人1本植える活動	1	一日千本（花木等の植樹、1人1本も良し）	1	各集落ごとの取組で行う植樹	1
	その他自然・天然記念物	雲海	1	天然記念物を守れる町、風穴、耕作放棄田に生き物（水性、動植物）が住める湿地に	3	山林や自然を生かした教室や催し等	1
小計：51			29		13		9
その他	歴史や自然探訪・ウォーキングなど	参勤交代を歩く森林渓谷セラピー	1	歴史をたどるウォーキング、史蹟を巡る街津和野	2	小さな谷川への車の乗り入れの観光	1
				手軽な案内書（旧城下町の散策やウオーキングコース）	1	安蔵寺山、青野山、地倉沼等の自然と登山コース	1
				町内めぐりを四季折々にすすめる（一方策として）・主要地の公民館を拠点としてそれぞれが事業計画をたてる	1		
	観光開発	保養地としての開発（別荘、セカンドハウス）	1				
	環境美化・ゴミ	環境の美化運動	1			津和野川河川の雑草の除去、清掃	1
		ゴミ問題	1				
	公園緑地の整備	公園の整備（丸山公園、天神山他）	1				
	農村環境	農村（里）環境保全及び整備	1				
	安全・安心の整備			津和野川に添った風呂屋橋から鷲原橋の遊歩道に街灯、防犯灯（青色灯火）の整備	1		
	その他	津和野本学は実は時代に逆行したことをした	1	山中であり、海にも近い	1	芸術作品にふれる機会がほしい	1
		それ以外に何がありますか？これだけあればすごいです	1	それを大切にして守り続けることが全てです	1	今より少し前の時代を守り続けましょう	1
		やさしい英会話の集い（小地区単位）	1				
小計：21			9		7		5
合計：197			107		56		34

第３節　津和野町の歴史文化の特色と価値

１　津和野町の歴史文化の特色と価値の構成

津和野町の歴史文化の特色と価値を個別的に取り上げ、さらに共通する視点（切り口）で大きく区分すると、以下のように全体的な特色と価値とともに、“野”、“山”、“街”といったキーワードでくくることができる。

また、それぞれの区分は相互に関連・影響し合っていることになる。

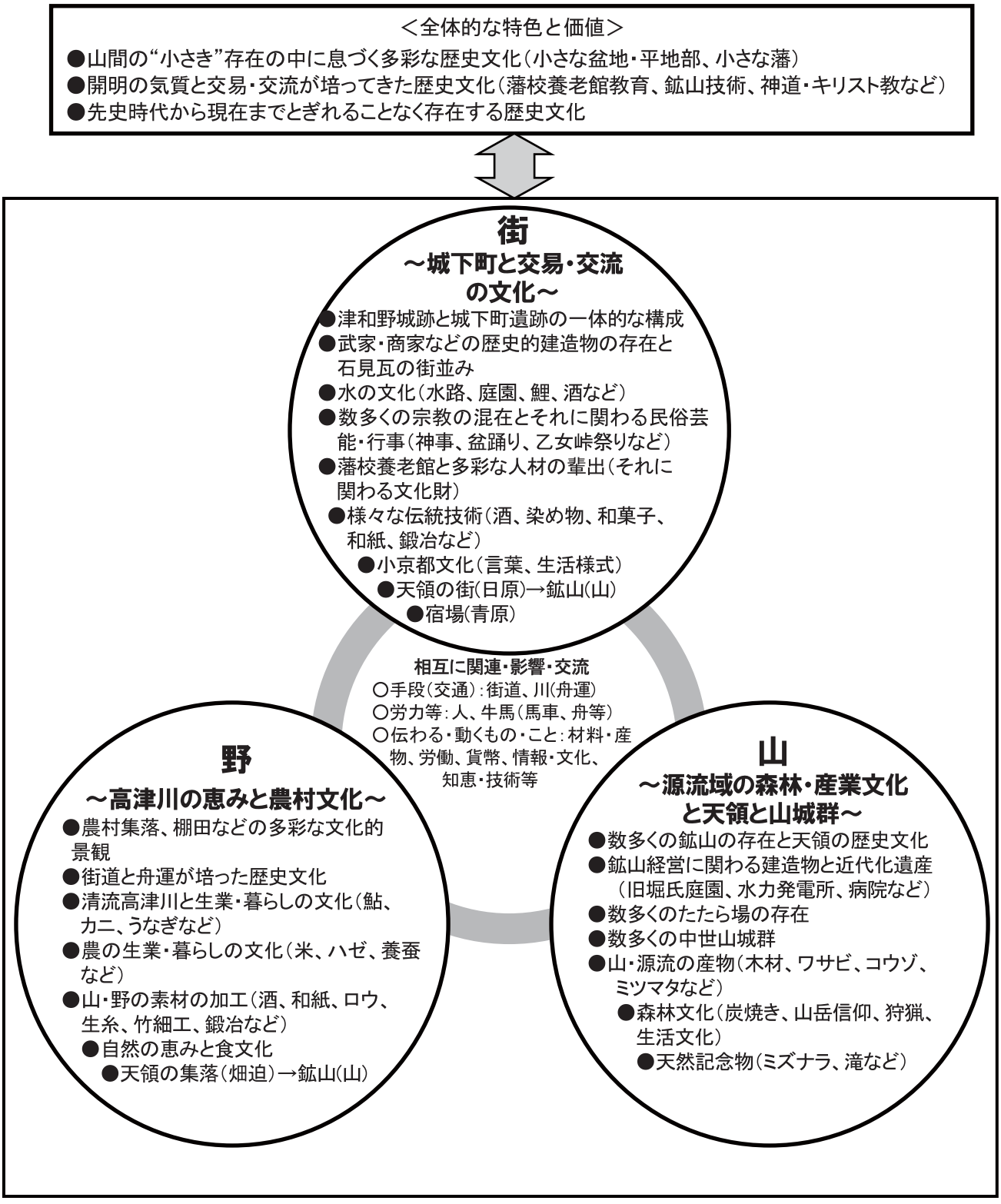


図1-1-13　津和野の歴史文化の特色と価値に関わる主な内容（要点）と構成

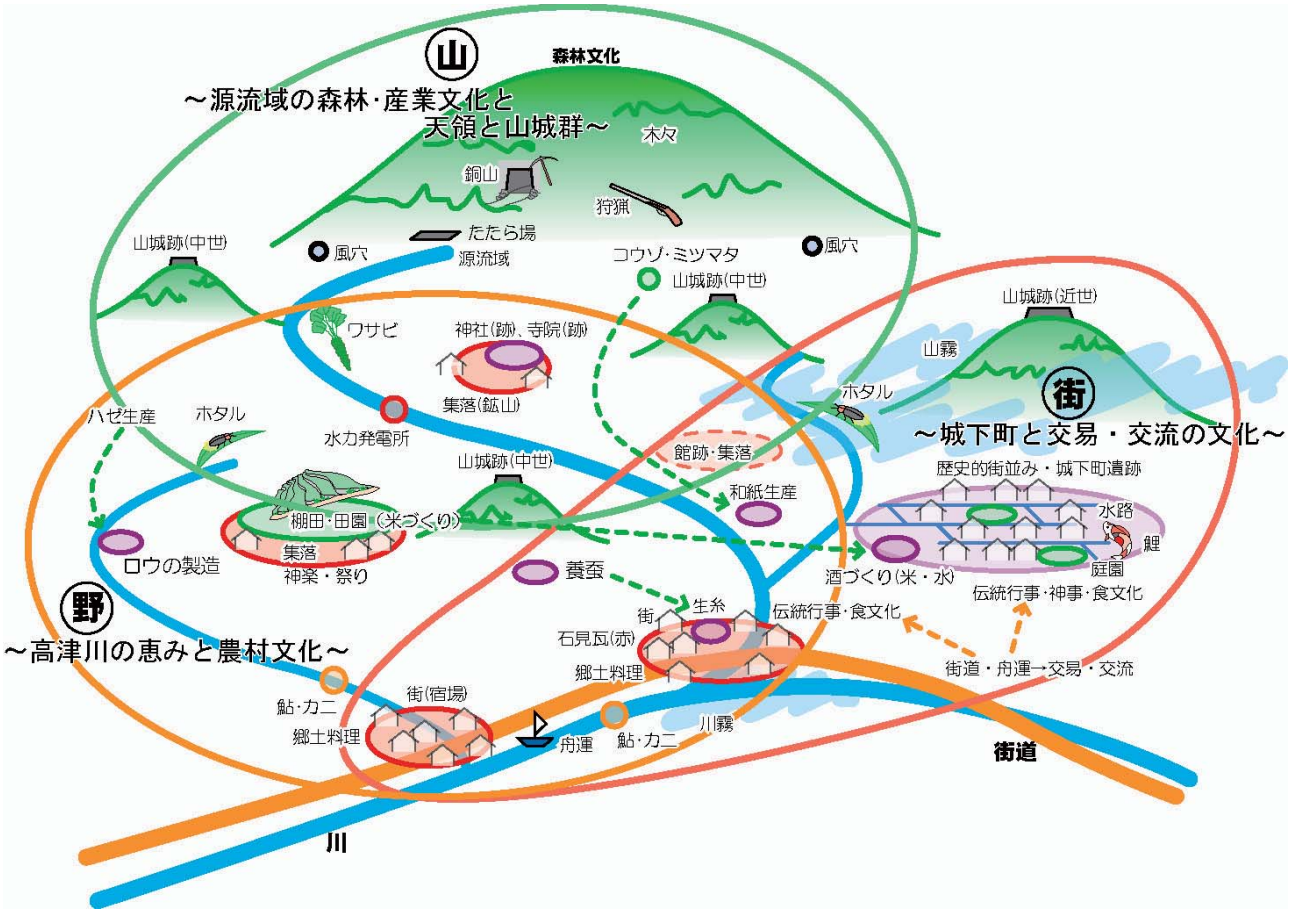


図1-1-14　津和野の歴史文化の特色・価値の構成イメージ～野・山・街～

２　津和野町の歴史文化の特色と価値

（１）　全体的な特色と価値

①　山間の“小さき”存在から生まれた多彩な歴史文化（小さな盆地・平地、小さな藩）

津和野町は、山間の盆地や平地、斜面地に街や集落を築いてきた地域であり、いずれも小規模な空間で、それらが地域の中に点在し、地形的には川がつなぐような構造となっている。

また、近世においては、津和野藩が置かれた地域であり、４万３千石の小藩であった。

このように地形的にも、藩の規模の面でも“小さき”存在であったものの、幕末の激動期における教育改革によって、多分野において数多くの人材を輩出し、とりわけ幕末から明治においては歴史的な使命を担い、その歴史と文化が息づく地域である。

②　開明の気質と交易・交流が培ってきた歴史文化

津和野町は、決して恵まれているとはいえない環境にありながらも、そこに生きる人々は川や森、自然の恵みを利用し、生かしながら、暮らしや地域を築いてきた。

また、山間の厳しい条件を克服するように、街道や舟運を通じて、活発な交易・交流を行い、各地の情報や技術を吸収してきた。こうしたことは、世の中の状況や時代の流れに対する鋭敏さにつながり、教育や個の充実の重要性を認識し、藩校養老館に代表される先駆的な人材育成に取り組み、その風土を引き継いできた。その結果、数々の人材を輩出し、それぞれの時代と次代を築いてきた。

いうならば津和野町は、風土を生かし、克服しながら、開明の気質を持って営んできた歴史と文化が息づく地域である。

③　先史時代から現在までとぎれることなく存在する文化財

津和野町には、縄文・弥生から古代、中世、近世、そして近代・現在に至るまで、各時代の文化財が、数多く存在する。

また、歴史的に培われた農業や林業、伝統産業といった生業、そして食文化や習俗、民俗芸能なども息づいている。

まさに、先史時代から現在まで、文化財がとぎれることなく存在し、現在においても、生活の中に様々な時代の歴史文化が息づいている地域である。

（２）「街」に関わる特色と価値～城下町と交易・交流の文化～

①　津和野城跡と城下町遺跡の一体的な構成

津和野城跡は、全国的にも希有な近世の山城跡であり、山城の居館を構成していた櫓が残っているのは津和野城跡だけである。

また、城下町を構成していた建造物が数多く残り、城跡と旧城下町が一体的に残っている。

②　武家・商家などの歴史的建造物の存在と石見瓦の街並み

旧城下町には、その時代の武家・商家などの建物が残り、また、明治以降の歴史的な建物も多数残っている。

また、建物の大半が石見瓦（赤瓦）を使用しており、街並みの景観を特徴づけている。

③　水の文化

藩校養老館前などには往時の水路が今も残り、鯉が泳ぎ、観光資源にもなっている。その他、現在は、水路の蓋掛けなどで見ることはできないが、地下には水路網の遺構が眠っている。

また、旧城下町の民家（商家など）では、京都の文化を取り入れた庭園が、煎茶文化などとともに暮らしを彩り、水を生かした酒づくりなどの生業も今に引き継がれている。

④　数多くの宗教の混在とそれに関わる民俗芸能・行事

津和野は、小規模な地域であるものの、神道、仏教、キリスト教が根づき、それに関わる神事や盆踊り、乙女峠祭りなど数多くの民俗芸能や行事が行われている。

⑤　藩校養老館と多彩な人材の輩出（それに関わる文化財）

近世においては、津和野藩に養老館が設置され、そこにおける教育により、多くの人材を輩出した歴史がある。

現在も藩校養老館の建物等（県の史跡）や森鷗外旧宅、西周旧居、関係する文書・資料などが残っている。

⑥　様々な伝統産業

津和野には、自然の恵みを生かした酒や和紙づくり、染め物、農耕を支えてきた鍛冶、京都の文化の影響を受けた和菓子づくりなどが継承されてきている。

⑦　小京都文化（言葉、生活様式）

津和野は、歴史的に京都の文化を取り入れた地域であり、言葉や生活様式にその影響がみられる。

生活様式に関しては、前述の庭園や和菓子に加え、煎茶の文化が今も暮らしに息づいている。

⑧　天領の街（日原）

日原は、銅山があることから、江戸幕府の直轄領（天領）となり、また、高津川の舟運や奥筋往還といった交通基盤、養蚕・製糸や精蝋などの産業もあり、発展した歴史を持つ。

現在では、近世の建物はなくなったが、街は引き継がれ、石見瓦の家並みと高津川、そして周囲の緑が景観を特徴づけている。

⑨　宿場（青原）

青原は、山陰道と高津川の舟運の結節点にできた宿場でり、代官所もあった。また、交易・交流の要衝であったことから、現在では、水害による再整備が行われたことや人口減少もあり、宿場の街並みとしては残っていないが、往時と同じ場所に建っている家や青原八幡宮、石造物、そして民俗芸能などを通じて、かつての賑わいや暮らしを知ることができる。

（３）「野」に関わる特色と価値～高津川の恵みと農村文化～

①　農村集落、棚田などの多彩な文化的景観

津和野には、山間の小規模な平地や斜面地を生かした農村集落や棚田が、散在する形で数多く存在する。

これらは、農地や川、周辺の山、森と相まって、それぞれに固有の文化的景観を形づくっている。

②　街道と舟運が培った歴史文化

津和野には、史跡に指定された山陰道（徳城峠越・野坂峠越）があり、さらに、津和野・廿日市街道、奥筋往還などの歴史的な道を確認することができる。また、清流高津川は、支流を含め舟運によって人・物などが行き交い、地域を支え・発展させた歴史を持つ。

このように津和野は、街道と舟運による交易・交流によって、歴史文化が培われてきた地域である。

③　清流高津川と生業・暮らしの文化

清流高津川は、鮎、カニ、ウナギなどの豊かな川の恵みをもたらしてきた川であり、漁労や食文化などをはぐくんできた。

現在でも伝統的な漁やその道具などが残り、鮎釣りは風物詩になっている。

④　農の生業・暮らしの文化

決して恵まれているとはいえない地形条件の中で、自然を生かし培われながら、米づくりが行われ、ハゼ、養蚕などの生業が営まれてきた。

⑤　山・野の素材の加工

津和野には、米、樹木・竹、ハゼ、まゆ、鉄など、山と野の生産物（素材）を生かした酒、和紙、竹細工、ロウ、生糸、鍛冶などの生業が生まれてきた。

⑥　自然の恵みと食文化

津和野は、川や農、山の恵みが地域で生み出され、交易・交流によって海産物や京都の食文化ももたらされた地域である。

また、豊かな森を背景に、鳥獣の肉食文化もはぐくまれてきた。

⑦　天領の集落

畑迫は、山間の山村または農村集落といえるが、近くに笹ヶ谷銅山があったことから江戸幕府の直轄領（天領）となり、発展した歴史を持つ。

銅山師（経営者）であった堀氏は、鉱山だけではなく、畑迫の生活の場の整備も進めた。

※次の「（４）　山に関わる特色と価値」を参照

（4）「山」に関わる特色と価値～源流域の森林・産業文化と天領と山城群～

①　数多くの鉱山の存在と天領の歴史文化

津和野には、笹ヶ谷銅山や日原銅山など、数多くの鉱山があり、地域の歴史文化を培ってきた。

笹ヶ谷銅山については、中世・近世・近代と操業を続け、銅山師（経営者）であった堀氏の庭園などは国の名勝に指定されている

日原銅山については、江戸時代は天領（幕府の直轄領）であり、周囲が津和野藩の中にあって、独自の生活と文化が培われていた。

②　鉱山経営に関わる建造物と近代化遺産

笹ヶ谷銅山は、長い間操業を続けた鉱山であり、多くの人々が働き、地域での暮らしが営まれてきた。銅山師（経営者）であった堀氏は、鉱山だけではなく、生活の場の整備も進め、庭園や関係する建造物、畑迫病院は国の名勝に指定されている。

また、水力発電所の整備も行い、前記の病院とともに近代化遺産と位置づけられる。

③　数多くのたたら場の存在

津和野の豊かな森（特に左鐙地区）は、たたら製鉄の基盤であり、近代製鉄が生まれるまでは、盛んに行われていた。

現在、たたら場跡は、樹木に覆われた状態ではあるが、左鐙地区を中心に数多く存在する。

④　数多くの中世山城群

津和野においては、弘安５年(1282)の吉見氏の入部以降、蒙古の再襲来に備え、築城が始まり、戦国期を含め、多数の山城が築かれた。

なお、津和野城は、吉見氏が築城を始め、その後、近世に入り坂崎氏、亀井氏に引き継がれたものであり、近世山城であると同時に、中世に築かれた部分も存在する。

⑤　山・源流の産物

津和野には、豊かな森があり、源流域が形づくられ、その地域では、木材が生産され、紙の原料であるコウゾ・ミツマタが採れ、ワサビが生産されている。

こうした山や源流の産物は、それ自体や生産過程が文化であると同時に、地域の生活文化と一体に存在する。

⑥　森林文化

山や源流、そこから生まれる産物は、地域の暮らしを支え、生活文化につながっていく。

津和野では、炭焼きや狩猟がわずかながらも引き継がれ、炭焼きの跡も確認できる。また、山岳信仰は暮らしの中に息づいている。

⑦　自然

津和野には、島根県下（県境以外）で最も高い安蔵寺山が位置し、豊かな森や源流域があり、そこには大ミズナラをはじめ大木や滝がみられ、それらは信仰の対象ともなっている。

また、その中には、多種多様な動植物が生息・生育している。

第４節　津和野町の文化財の保存・活用の問題点・留意点

津和野町の文化財の保存・活用に関わる問題点・留意点を検討するにあたって、次の３つ視点（切り口）を設定する。

■文化財の法制度上の位置づけ（指定等の有無）

文化財とは、「指定などの措置がとられているか否かにかかわらず、歴史上または芸術上など価値が高い、あるいは人々の生活の理解のために必要なすべての文化的所産」であるが、法的に指定または登録してある文化財と、そうでない文化財は、通常、保存や周知などにおいて大きな違いがある。

このため、文化財の指定等の有無を切り口に、問題点・留意点を探る。

■文化財の保存・活用の区分

文化財の保存・活用に関しては、その背景となる文化財に対する所有者や住民等の意識・考えに関すること、調査・研究、保存・活用を支える体制・制度、主としてハードに関する整備、維持管理、活用の取組があげられる。

このため、こうした側面における問題点・留意点を探る。

■文化財の保存・活用の担い手

文化財の保存・活用においては、それを誰が担っていくかが大きな課題となる。

現状においては、指定または登録された文化財は、行政及び所有者・管理者が、それぞれ法に基づいて、管理や修理などを担うことになる。

しかし、文化財とは指定等が行われているものだけではなく、「すべての文化的所産」であり、本構想の推進においては、行政及び所有者・管理者だけでなく、広く住民等の協力と参加が重要になる。

このため、文化財の保存・活用の担い手を切り口に、問題点・留意点を探る。

以上の視点（切り口）をもとに、文化財の保存・活用の区分ごとに問題点・留意点を検討すると、次頁の表のようになる。

表1-1-7　津和野町の文化財の保存・活用の問題点・留意点

区分（視点）		文化財の法制度上の位置づけ		
		指定・登録	未指定等	全般
文化財の保存・活用の区分	文化財に対する意識・考え	○住民に対する指定文化財に関する理解と周知の不足 □住民の指定文化財への理解と知識の不足	○未指定文化財の存在や価値への理解の醸成が不十分 ◇未指定文化財の保存・活用に関する行政と所有者・住民等の知識・考え方の共有	◇津和野の文化財の特色や価値の共有 ◇少子高齢化や過疎化等を背景とした文化財の保存・継承への懸念
	調査・研究・計画づくり	○保存管理計画等の策定	◇未指定文化財の再発見・把握・調査・研究（文化財そのもの、所有者など）	○継続的な文化財の調査への対応 ◇文化財に関わる資料・データ等の把握・整理
	保存・活用を支える体制・制度	◇行政と所有者・住民等の連携が不十分（役割が不明確）	◇未指定文化財の保存・継承（活用）への対応 ◇文化財の把握・管理の体制が未整備	○文化財の調査及び保存・活用の体制・制度 ○文化財行政とまちづくり・観光等との連携 ◇行政とボランティアの連携 ◇文化財の保存・活用に関わる担い手・団体の育成 ○文化財の保存・活用への支援 ◇地域ぐるみで取り組む文化財の保存・活用の体制（地域や学校との連携）
	文化財の整備（主としてハード）	○文化財の整備状況及び整備への対応不足	○文化財としての整備への対応不足 ◇行政と所有者・住民との連携不足	○文化財の利用に関わる安全対策やバリアフリー等への対応 ○ガイダンスや展示施設等の整備 ○便益施設（駐車場、トイレ、休憩の場など）の整備 ○サインの整備 ○動線の整備（アクセス、周遊など） ◇文化財の周辺環境の整備
	保護及び維持管理の取組（ソフト）	○文化財の維持管理が不十分（パンフレット作成、草刈などの取組）	□文化財の保存状況（取組） □保管施設が未整備	□所有者としての文化財の保護への対応 ◇文化財のパトロールや点検など維持管理の取組 ◇鳥獣被害などからの文化財の保護 ◇文化財の防災・盗難対策への対応
	活用の取組（ソフト）	○文化財の公開の状況 ○文化財や文化施設の利用料金の状況・評価 ○情報発信不足 ○展示・公開施設の未連携	◇文化財の活用不足 ○情報発信不足 ○展示・公開施設の未連携	○文化財に関する学習・体験機会の確保 □文化財の公開・開放への対応 ◇文化財に関わる資料等の活用及び情報提供・発信 ◇文化財を生かしたまちづくりや観光振興への取組 （◇行政とボランティアの連携）
	その他	○関係部局との連携不足		◇文化財等を意識した景観の保全・形成（周辺環境を含めた文化財の保存・活用） ◇つながりや周辺環境を含めた文化財の保存・活用への対応 ◇文化財の維持管理・活用に関わる資金（浄財）の確保

担い手：○（主として）行政に関わること　　□（主として）住民等に関わること　　◇行政と住民等に関わること

第５節　津和野町の文化財の保存・活用の課題

津和野町の文化財やそれを取り巻く環境の特性や問題点などを踏まえ、文化財の保存・活用に関する課題を検討すると、大きくは次の７つの課題が設定できる。

＜津和野町の文化財の保存・活用の課題＞

- 「住民等の文化財に対する意識・理解の醸成」に取り組むことが必要
- 「地域の文化財の再発見・再認識と保存」に取り組むことが必要
- 「つながりを持った文化財の保存・活用」に取り組むことが必要
- 「周辺環境を含めた文化財の保存・活用」に取り組むことが必要
- 「地域ぐるみで文化財の保存・活用」に取り組むことが必要
- 「文化財の価値・特色の共有・顕在化と津和野の魅力づくり」に取り組むことが必要
- 「文化財を生かしたまちづくりや観光振興」に取り組むことが必要

１「住民等の文化財に対する意識・理解の醸成」に取り組むことが必要

文化財の保存・活用には、住民や関係権利者、さらには津和野町を訪れた人々などの理解と協力が大切であり、また、維持管理などの担い手として住民等の力が期待される。

このため、基礎的な取組として、住民等の文化財に対する意識・理解の醸成に取り組む必要がある。

２「地域の文化財の再発見・再認識と保存」に取り組むことが必要

津和野町には、確認しているが指定や登録を行っていない文化財が数多くあり、さらには埋もれて気づかないものも存在すると考えられる。

このため、地域を最もよく知る住民の参加によって、地域の文化財の再発見・再認識と保存（下記「地域ぐるみで文化財の保存・活用」）を進めるとともに、合併を踏まえ、全町的な指針・基準等を設け、文化財の指定・登録にも取り組むことが必要である。

３「つながりを持った文化財の保存・活用」に取り組むことが必要

津和野町には、山城跡や鉱山跡、民俗芸能が多数存在し、幾筋もの街道があるなど、つながりや共有性を持つ文化財がある。

これらは、それぞれにおいて特色や価値・魅力を持つと同時に、つないで保存・活用することによって、“群”としての特色や価値・魅力を備えることになる。

このため、関連する文化財を共通するテーマ等でつなぎ、特色や価値・魅力を引き出す取組が必要である。

４「周辺環境を含めた文化財の保存・活用」に取り組むことが必要

文化財は、それ自体に特色や価値・魅力があるが、それが存在する周辺の環境によって、その存在などが弱められたり、保存・活用がしにくかったりすることがある。

このため、文化財の価値の及ぶ範囲などにおいては、可能な限り文化財と周辺環境を一体的に捉え、保存・活用に取り組む必要がある。

5「地域ぐるみで文化財の保存・活用」に取り組むことが必要

過疎化、少子高齢化が進んでおり、地域の文化財の保護が難しくなりつつある中において、文化財の保存・活用には、行政や関係権利者だけでなく、住民等の理解と協力、そして幅広い参加が不可欠である。とりわけ日常的な管理やモニタリングは、地域住民の参加を前提とすることになる。また、文化財の継続的な調査も、専門家に加え、住民等の参加が期待される。

このため、広域的な支援を含め、地域ぐるみで文化財の保存・活用を進める体制づくりや人材の確保・育成などに取り組む必要がある。

6「文化財の価値・特色の共有・顕在化と津和野の魅力づくり」に取り組むことが必要

地域ぐるみで文化財の保存・活用を進めるためには、文化財やその保存・活用の意義や効果などを共通認識することが大切であり、さらに、共通する価値などに基づき、津和野の魅力づくりやイメージアップに取り組むことが期待される。

このため、共有でき、かつ、住民等に浸透する文化財の価値・特色を見いだし、その共有化・顕在化を図るとともに、広く情報発信していくことが必要である。

7「文化財を生かしたまちづくりや観光振興」に取り組むことが必要

文化財の保存・活用を、広がりを持って進めるためには、まちづくりとの連携が大切であり、とりわけ津和野町においては、観光振興と文化財の保存・活用は表裏一体の関係ともいえる。

このため、文化財保護行政と生涯学習、観光振興、都市計画、建設部門などの連携を図りながら、歴史文化を生かしたまちづくりを進める必要がある。

第２章　保存・活用の基本理念と目標

第１節　保存・活用の基本理念

地域における歴史文化を生かしたまちづくりの理念として、

〇地域のアイデンティティ※の確保及びその絆の維持

〇人々の生活の中での文化財の保存及びその根底にある知と技の継承

があげられている（「文化財の保護とまちづくり」文化庁文化財部）。

こうした点に加え、津和野町の文化財の状況や特色・価値、住民の文化財に対する意識などを踏まえながら、文化財の保存・活用の基本理念を設定する。

＜津和野町における文化財の保存・活用の基本理念＞

“野・山・街”と共存する津和野の歴史文化を、

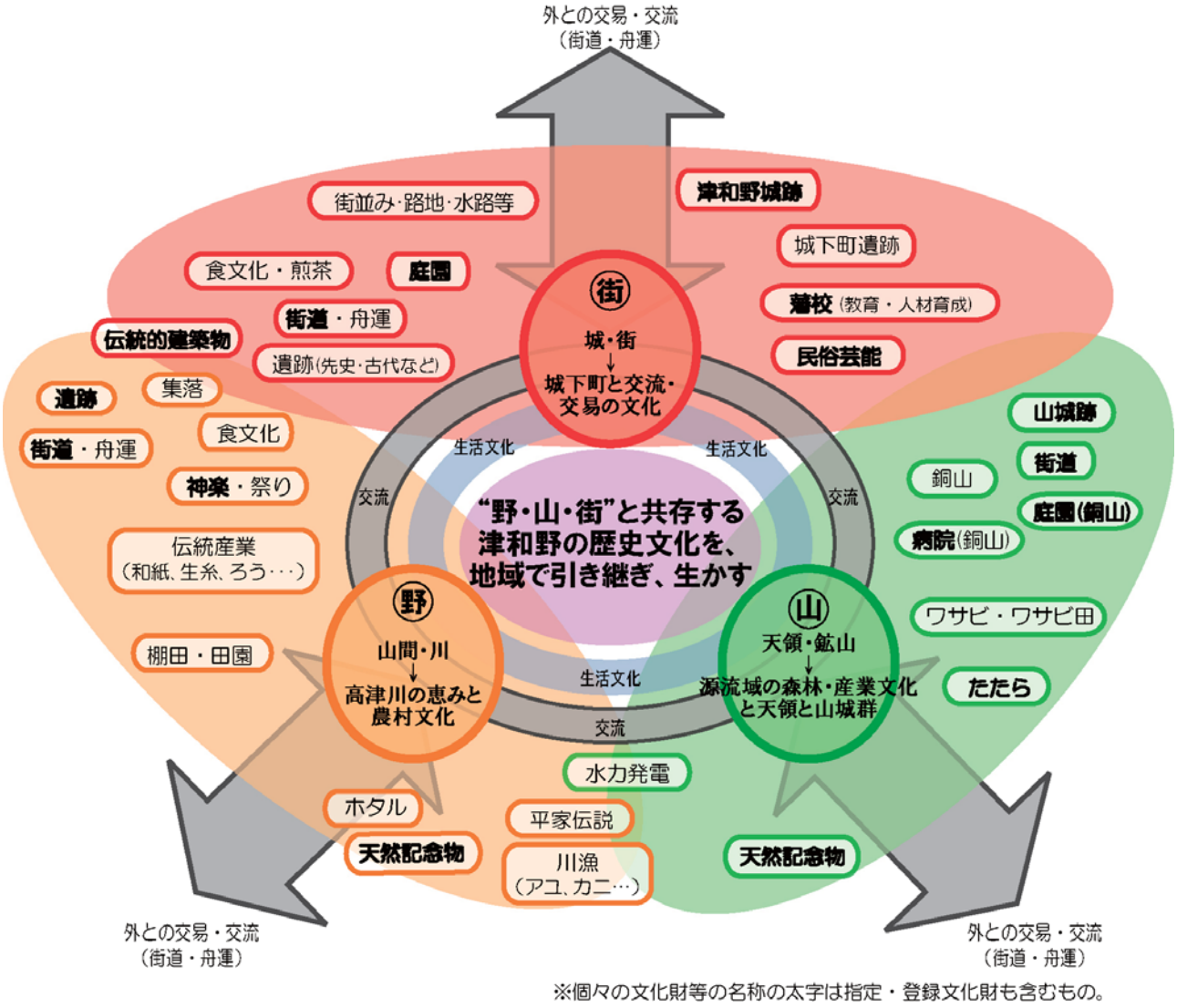
地域で引き継ぎ、生かす

津和野町の文化財の基盤や背景となるものとして、日本を代表する清流高津川の恵みを受けながら、人々が培ってきた農村文化、源流域の山々や自然を生かした産業や天領としての歴史、数々の街道や舟運による交易・交流、城や城下町の形成と営み、そして日本近代国家創生に関わる人物の輩出等々があげられる。

これらは、前述の「津和野町の歴史文化の特色と価値」で示した“野”、“山”、“街”と重なり合うとともに、自然や風土に耐え、生かしながら、歴史文化を培ってきた先人の努力と知恵によるものであり、開明の精神で文化・文明を先進的に取り入れ、地域をつくり、育んできた足跡（遺産）である。

こうした背景を踏まえ、このコンセプト（基本理念）の意味するところは、先人達が“野・山・街”に暮らし、生み出し、育んできた歴史文化を、私たち一人ひとりが心に刻み、引き継ぎ、生かしながら、津和野ならではの心豊かで活力と魅力に満ちたまちを築いていくことにある。

※　アイデンティティ
独自性 、自己認識。



※個々の文化財等の名称の太字は指定・登録文化財も含むもの。

図1-2-1　コンセプト設定の背景

第２節　保存・活用の基本目標

保存・活用の基本理念を具体化する取組を方向づけるための基本目標を、歴史文化基本構想の役割などを踏まえて設定する。

保存・活用の基本目標

キーワード：再発見

一人ひとりが文化財について理解を深め、地域の文化的所産（文化財）を再発見・再認識し、大切にする

→（主として）「第５章　地域ぐるみで取り組む文化財の保存・活用」で基本的な取組（施策）などを検討

キーワード：つながり

関連する文化財を一体として保存・活用し、価値の顕在化と特色・魅力を高めるつながりをつくる

→（主として）「関連文化財群」で基本的な取組（施策）などを検討

キーワード：広がり

周辺環境を含め文化財を保存・活用し、価値の顕在化と特色・魅力を高める広がりをつくる

→（主として）「歴史文化保存活用区域」で基本的な取組（施策）などを検討

キーワード：活動

住民等の参加のもとに、文化財を守り、生かす多彩な活動を生み出す

→（主として）「第５章　地域ぐるみで取り組む文化財の保存・活用」で基本的な取組（施策）などを検討

キーワード：体制・制度

一人ひとりが文化財（歴史文化）について学び、守り、生かし、伝えるための仕組みをつくる

→（主として）「第５章　地域ぐるみで取り組む文化財の保存・活用」で基本的な取組（施策）などを検討

「保存活用計画」で具体的な取組などを検討

＜基本理念と目標の設定＞

＜地域における歴史文化を生かしたまちづくりの理念＞

〇地域のアイデンティティの確保及びその絆の維持

〇人々の生活の中での文化財の保存及びその根底にある知と技の継承

津和野町の文化財の状況

住民の文化財に対する意識

津和野町の歴史文化の特色と価値

津和野町の文化財に関する問題点・留意点

津和野町の文化財の保存・活用の課題

津和野町のまちづくり（文化財に関わる方針、施策など）
〇第１次津和野町総合振興計画
〇都市計画マスタープラン
〇津和野町景観計画
〇法適用、津和野町環境保全条例　　など

社会的状況・時代の流れ
〇少子高齢化、人口減少社会（中山間地域などは過疎化）
〇余暇時間の増大とライフスタイルの多様化→成熟社会
〇地方分権と地域協働　など

文化財を総体として捉えて新たな価値を付加
〇周辺環境も合わせて保護

社会全体で文化財を保護するための方策
〇文化財の価値を魅力的な形で分かりやすく提示

＜津和野町における文化財の保存・活用の基本理念＞

“野・山・街”と共存する津和野の歴史文化を、

地域で引き継ぎ、生かす

＜津和野町における文化財の保存・活用の基本目標＞

●一人ひとりが文化財について理解を深め、地域の文化的所産（文化財）を再発見・再認識し、大切にする

●関連する文化財を一体として保存・活用し、価値の顕在化と特色・魅力を高めるつながりをつくる

●周辺環境を含め文化財を保存・活用し、価値の顕在化と特色・魅力を高める広がりをつくる

●住民等の参加のもとに、文化財を守り、生かす多彩な活動を生み出す

●一人ひとりが文化財（歴史文化）について学び、守り、生かし、伝えるための仕組みをつくる

第３章　関連文化財群の設定と取組方向

第１節　関連文化財群の設定

有形・無形、指定・未指定を問わず、地域に存在する様々な文化財を、歴史的、地域的関連性等に基づいて、一定のまとまりとして設定するものである。

津和野町は、山間に位置し、近世城下町をはじめとし、個々の集落が単独で周辺環境とあいまって特長ある文化的環境を形成している。文化財の特性を見いだす上において考慮すべきは、個々の文化財が集落内において相互に関連し合って地域の特性を示すもの（狭義性）もあれば、個々の文化財が他の集落の文化財と横断的に関連し合ってはじめて価値をなすもの（広義性）も存在するものもある。

また、関連文化財群の設定においては、以下に示す基本的な考え方に基づき、①関連性、②テーマ性③意義・役割、④核となる文化財が明確となる必要となる。

こうしたことを踏まえ、津和野町においては、次のような基本的な考え方のもとに関連文化財群を設定する。

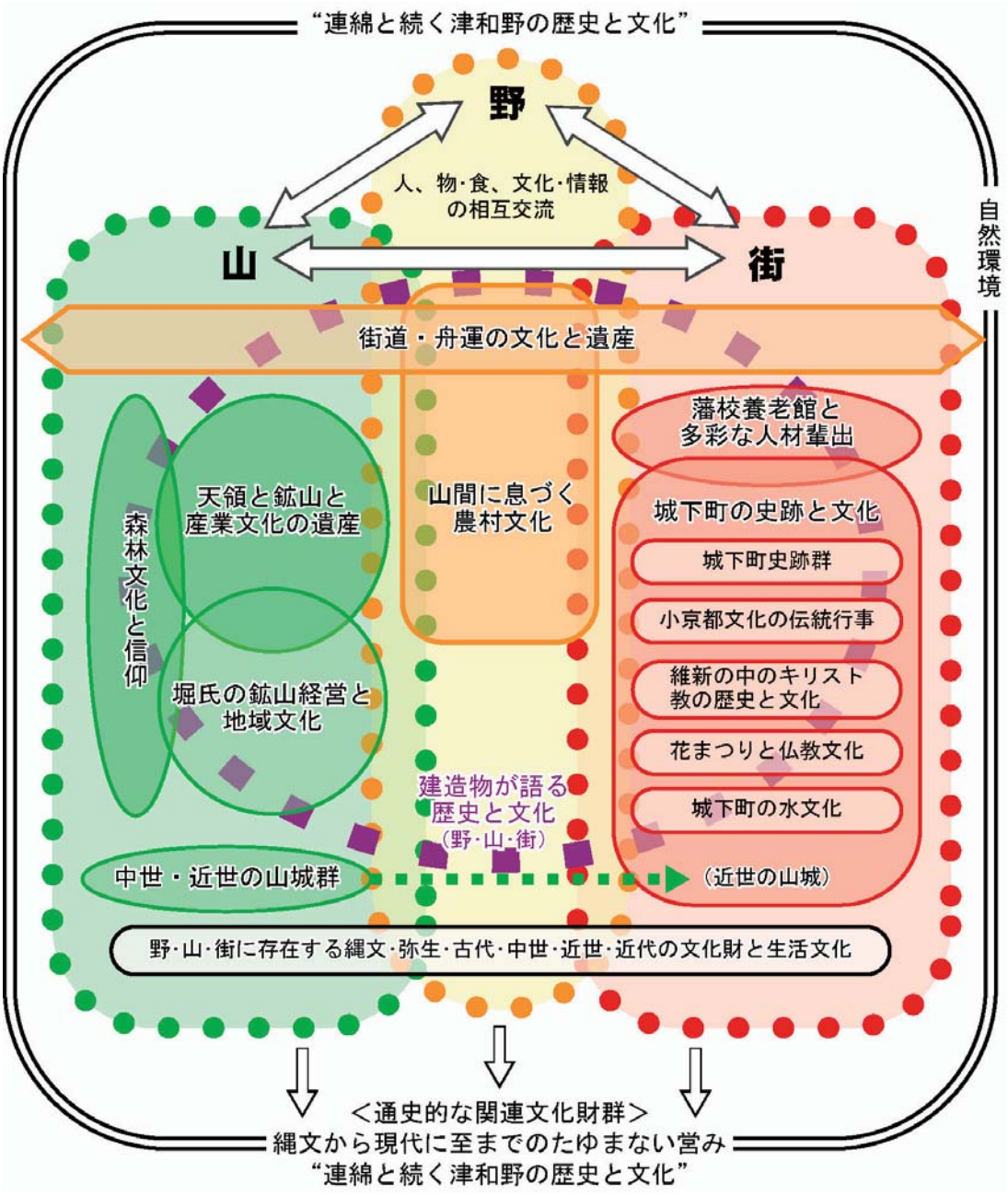


図1-3-1　関連文化財群のテーマと構成

＜関連文化財群の設定の基本的な考え方（基準）＞

●コンセプトとその背景に基づいていること

●対象となる文化財が相互に歴史的な関連性を有し、その内容および価値が明らかなものであること。

●指定（または登録）文化財または今後指定されるべき文化財を含み、かつ、関連する文化財を有すること。

●共通する保存・活用のテーマ等が見いだせること。

表1-3-1　関連文化財群の設定（１／４）

関連性の視点（切り口）～設定の考え方～		関連文化財群の内容（概要） 関連文化財群【名称（テーマ）】	意義・役割	主な文化財 ★：核となるもの（指定・登録） ☆：指定等を目指すもの
（主として）街	・教育・人材育成、思想の面からのテーマ等の検討 ・人物によるテーマ等の検討	■人材育成に関わる関連文化財群【藩校養老館と多彩な人材輩出】	現在も残る藩校養老館と、ここで学び近代日本の礎となった多くの人材やその関連する文化財について再認識し、保存・活用する。	★藩校養老館 ★西周旧居 ★森鷗外旧宅 ★桜陰館（岡熊臣旧宅） ☆教授生誕地、墓所 ☆教科書　・吉松家文書 ・孔子像　など
（主として）山	・城跡に関するテーマの検討	■城跡を中心とした関連文化財群【中世・近世の山城群】	全国的にも数少ない近世山城（津和野城跡）や地域に広がる数多くの中世山城に光を当て、城からみた歴史文化と津和野の特性を見いだし、保存・活用する。	＜近世＞ ★津和野城跡（城郭、藩邸） ＜中世＞ ★津和野城跡 ★下瀬山城跡 ☆御嶽山城 ☆陶晴賢本陣跡 ・茶臼山城跡 ・中木屋城跡 など

注）■は広義の関連文化財群、□は狭義の関連文化財群


藩校養老館


西周旧居


森鷗外旧宅


桜陰館（岡熊臣旧宅）


津和野城跡



下瀬山城跡

表1-3-1　関連文化財群の設定（２／４）

関連性の視点（切り口）～設定の考え方～		関連文化財群の内容（概要）		主な文化財 ★：核となるもの（指定・登録） ☆：指定等を目指すもの
		関連文化財群 【名称（テーマ）】	意義・役割	
（主として）街	・城下町に関するテーマ等の検討 ※歴史文化保存活用区域と連携	■城下町に関わる史跡や建造物、民俗文化を中心とした関連文化財群 【城下町の史跡と文化】	城下町に関わる史跡や建造物、民俗文化などを総体として保存・活用する。	※下記の５つの狭義の関連文化財群における文化財
	・近世城下町に関わる建造物や遺跡に関するテーマの検討	□近世城下町の史跡群 【城下町史跡群】	近世城下町遺跡内（全域が周知の遺跡）にあって、現在までその遺構等を良好に残すもの（史跡）を関連文化財群として保存・活用する。	★藩校養老館 ★鷲原八幡宮流鏑馬馬場 ☆津和野神社 ☆弥栄神社 ☆高崎亀井家跡 ☆永明寺 ☆藩主亀井家墓所 ☆津和野藩邸瓦窯跡　など
	・民俗文化財に関するテーマ	□城下町の民俗芸能に関する関連文化財群 【小京都文化の伝統行事】	小京都文化のひとつである祇園祭は津和野の特長であり、それらを一括して保存・継承する。	★弥栄神社の鷺舞 ☆弥栄神社 ☆お旅所 ・祇園祭縁起など関連資料 ・物見櫓（藩邸、多胡家など） ・御神幸ルート　・子鷺踊り ・輪くぐり神事　など
	・宗教に関するテーマ	□キリスト教と乙女峠祭に関する関連文化財群 【維新の中のキリスト教の歴史と文化】	宗教の混在する津和野においてキリシタン弾圧の歴史は負の歴史。関連する文化財を一体として保存・継承する。	★カトリック教会 ★カトリック教会神父館 ☆乙女峠とマリア聖堂 ☆千人塚 ・キリシタン燈籠 ・巡礼の道 ・キリシタン関係資料　など
		□花まつりに関する関連文化財群 【花まつりと仏教文化】	お釈迦様の誕生日を祝う宗派を超えた仏教文化を保存・継承する。	★永明寺（曹洞宗） ・常光寺（浄土真宗） ・光明寺（浄土宗） ・花まつりルート　など
	・水に関するテーマ	□水に関する関連文化財群 【城下町の水文化】	周囲を山に囲まれた街には水路が張り巡らされ、周囲の農村部とは異なる小京都としての独特の文化が育まれた。それらを一体として保存・活用する。	★亀井氏庭園 ☆永明寺庭園 ・藩邸庭園跡地 ・商家庭園　・煎茶文化 ・汲み地（各所）　・取水口 ・鯉、花菖蒲 ・酒造りと井戸 ・和菓子作り ・石州和紙の製造 ・水田　・雲海　など


鷲原八幡宮流鏑馬馬場


弥栄神社の鷺舞


カトリック教会


永明寺


亀井氏庭園

表1-3-1　関連文化財群の設定（３／４）

関連性の視点（切り口）～設定の考え方～		関連文化財群の内容（概要） 関連文化財群【名称（テーマ）】	意義・役割	主な文化財 ★：核となるもの（指定・登録） ☆：指定等を目指すもの
（主として）山	・天領と鉱山と産業文化からのテーマ等の検討	■銅山とたたら場跡を中心とした関連文化財群【天領と鉱山と産業文化遺産】	津和野の経済的基盤と産業文化を生み出した数多くの鉱山、たたら場を再認識し、守り、生かす。	＜銅山＞ ☆笹ヶ谷銅山跡（坑道、製錬所跡、堀氏文書ほか関連資料） ・十王堂銅山跡 ☆日原銅山跡 ・成日照銅山跡 ＜たたら場＞ ★瀧谷たたら跡 ・上ヶ原たたら跡 ・どるぶちたたら跡 ・横道たたら跡 ＜関連文化財＞ ・製鐵関連資料　・原田家墓所 ・銅山馬車街道　など
	・堀氏に関わるテーマ等の検討 ※歴史文化保存活用区域と連携	■堀氏の鉱山経営と地域の暮らしに関する関連文化財群【堀氏の鉱山経営と地域文化】	近代まで引き継がれていた鉱山経営と産業文化、そして地域との関わりを再認識し、守り、生かす。	★旧堀氏庭園（楽山荘庭園、和楽園、畑迫病院） ☆堀氏墓所 ☆堀氏所蔵古文書、資料 ☆笹ヶ谷銅山跡 ☆旧川園 ・晩越水力発電所跡　など
（主として）野	・山陰道をはじめとした街道や舟運を軸としたテーマ等の検討	■街道・舟運の遺産を中心とした関連文化財群【街道・舟運の文化と遺産】	山陰道をはじめとした街道、高津川の舟運、陸と川の道の結節、及びそれらとつながる産業や暮らしの文化を再認識し、守り、生かす。	★山陰道（野坂峠越・徳城峠越） ☆津和野・廿日市街道（参勤交代道） ☆奥筋往還（津和野藩飛地へ） ・津和野藩番所跡 ・塩街道（笹ヶ谷～江崎） ・銅山・馬車街道（　〃　） ・渡し跡 ☆山口線（ＳＬ転車場、石炭練習場、橋脚、トンネル）　など
野・山・街	・歴史的建造物を中心としたテーマ等の検討	■多彩な歴史的建造物を中心とした関連文化財群【建造物が語る歴史と文化】	津和野の歴史文化を伝える町家や民家などを再認識し、守り、生かす。	★藩邸（馬場先櫓、物見櫓） ★武家屋敷（多胡家主屋、表門） ★商家住宅（財間家住宅、河田商店、下森酒造場、藤井家住宅など ★農家住宅（竹原家住宅） ★宗教施設（鷲原八幡宮、三渡八幡宮、永明寺、カトリック教会など） ★公共施設（役場、郷土館） ・石見瓦　・座頭さぐり　・鍮絵 ☆石垣（城跡、館跡、石段、棚田など…一部指定あり）　など


旧堀氏庭園


山陰道（野坂峠越）


馬場先櫓


物見櫓


多胡家表門


商家住宅（橋本酒造場）

表1-3-1　関連文化財群の設定（４／４）

関連性の視点（切り口）～設定の考え方～		関連文化財群の内容（概要）		主な文化財 ★：核となるもの（指定・登録） ☆：指定等を目指すもの
		関連文化財群 【名称（テーマ）】	意義・役割	
（主として）野	・農村の伝統文化と信仰に関わるテーマ等の検討	■多彩な農村文化を中心とした関連文化財群 【山間に息づく農村文化】	津和野は城下町、天領（２箇所）を除くとその多くが農村であり、相互に関連する伝統文化や、信仰の対象となる文化財について一体として保存・活用する。	★柳神楽と神楽面 ☆石見神楽（４か所） ☆田植え囃子（３か所） ・三霊堂（和紙生産に関する物語と祠：４か所） ・河内神社など各種神社と地鎮申し（多数） ★神社の社叢（多数） ・荒神森と墓、供養塔（多数） ★竹原家住宅（農家住宅） ☆地芝居 ・農村食文化（まんさく、さば、芋煮、しるこ）　など
（主として）山	・森林文化と信仰に関わるテーマ等の検討	■山と森に関する関連文化財群 【森林文化と信仰】	豊かな森や山々の自然環境を次代に引き継ぐとともに、そこでの暮らしの文化（足跡）や信仰を保存・継承する。	★安蔵寺山の大ミズナラ ☆青野山　　☆安蔵寺山 ・山岳信仰 ・山王権現 ・炭窯跡　など
野・山・街	・通史的な関連文化財群の検討	■縄文から現代に至るまでのたゆまない営み 【連綿と続く津和野の歴史と文化】	古代（先史）から現代まで、文化財を通じて、時間軸を意識しながら、津和野の歴史文化と歩み、そして、特色・魅力を体験できるようにする。	★城下町遺跡（近世：周知の遺跡） ★木薗遺跡（中世） ☆高田遺跡（縄文後期～中世） ☆大蔭遺跡（縄文晩期～弥生） ☆大婦け遺跡（奈良・平安） ・喜時雨遺跡（中世） ・山崎遺跡（縄文草創期） ・その他遺跡と出土遺物　など


左鐙八幡宮の社叢


竹原家住宅


安蔵寺山の大ミズナラ

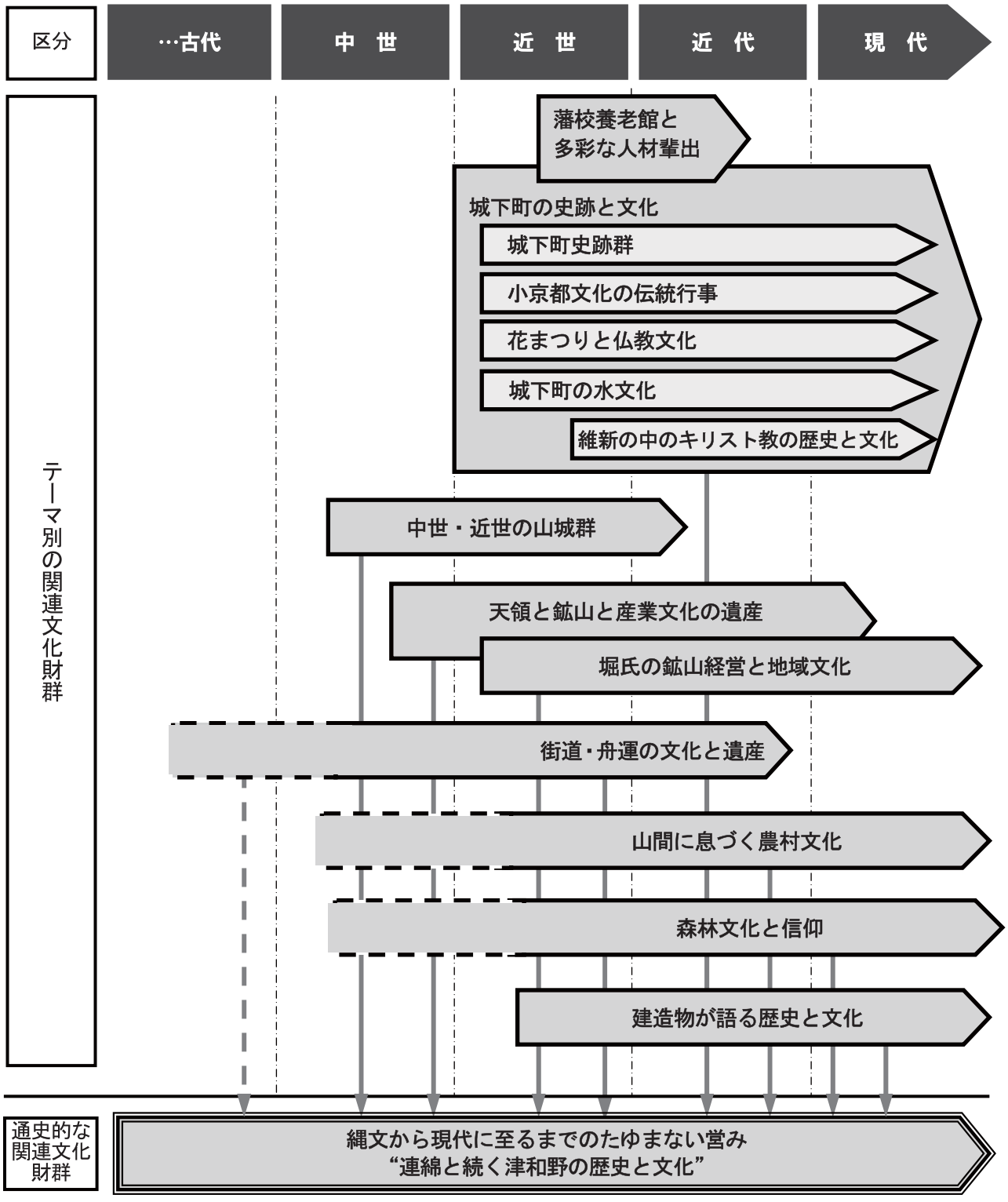


図1-3-2　関連文化財群の時代と通史的な関連文化財群の設定

第２節　関連文化財群における取組方向

関連文化財群における文化財の保存・活用について、個別的な取組の方向及び群（つながり）づくりの方向を明らかにするとともに、各関連文化財群に共通する内容をまとめる。

なお、取組内容については、「第２部　津和野町歴史文化保存活用計画」に記している。

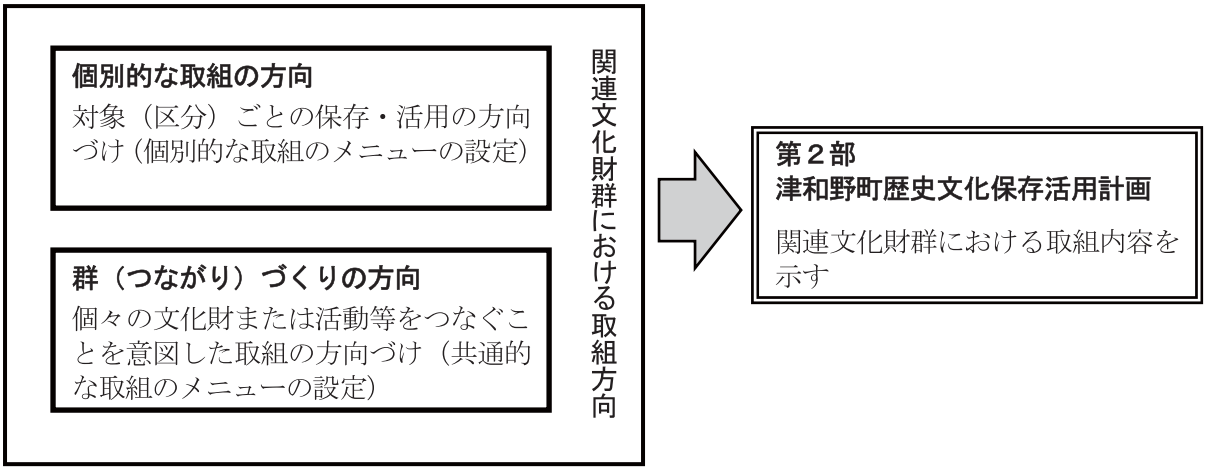


表1-3-2　関連文化財群における文化財の保存・活用の取組方向（１／３）

関連文化財群【名称】	個別的な取組の方向	群（つながり）づくりの方向	
■人材育成に関わる関連文化財群【藩校養老館と多彩な人材輩出】	○藩校養老館の修理・復元と活用 ○藩校養老館及び教育・文化に関わる文書・史料の調査・研究と保存・活用 ○旧宅・居宅の保存・活用 ○森鷗外旧宅と森鷗外記念館の活用 ○郷土館の整備・充実 ○西周記念館構想の検討 ○墓所・石碑等の調査と保存・活用	○「人材」をテーマとした調査・研究と成果等の活用 ○「人材」をテーマとした広域的な交流・連携（自治体、地域、研究機関、個人など） ○藩校養老館や旧居・旧宅等における「人材育成」に関わる展示・情報提供の充実	共通する事項（表末に記載）
■城跡を中心とした関連文化財群【中世・近世の山城群】	○津和野城跡の保存・活用 ・石垣の修復 ・郭、建物跡等の遺構の保存・活用 ・登城路等の遺構の保存・活用 ・馬場先櫓、物見櫓の保存・活用 ・藩御殿等の復元 ・津和野城跡の環境整備：樹木・竹、登山道（登城路）・ルート、サイン、維持管理　など ○その他の中世山城跡の調査と保存・活用（津和野城跡以外） ・文化財指定の検討 ・登城路（登山道）の確保・整備 ・維持管理への対応（草刈り…）	○城跡に関わる調査・研究と成果等の活用 ○城跡めぐりを軸とした周遊ネットワークの形成 ○街道を生かしたネットワークづくり ○山城（跡）に関わる広域的なネットワークづくり ・代表的な山城のある地域 ・津和野と関わりの深い山城のある地域	

表1-3-2　関連文化財群における文化財の保存・活用の取組方向（２／３）

関連文化財群【名称】		個別的な取組の方向	群（つながり）づくりの方向	
■城下町に関わる史跡や建造物、民俗文化を中心とした関連文化財群【城下町の史跡と文化】	□近世城下町の史跡群に関する関連文化財群【城下町史跡群】	○城下町関連史跡の調査・研究と文化財指定への対応（保存） ○城下町関連史跡の整備・活用	○城下町史跡群のネットワークづくり ・道の整備（舗装の工夫など） ・サインの整備 ・情報提供：パンフレット、インターネット、携帯電話の活用　など ・ボランティアガイドの育成・支援	共通する事項（表末に記載）
	□城下町の民俗芸能に関する関連文化財群【小京都文化の伝統行事】	○城下町に関わる民俗芸能の継承・活用 ○民俗芸能の衣装・道具及び保管施設等の整備 ○後継者（担い手）の確保・育成	○関連資料の調査・研究と成果等の活用 ○鷺舞神事等の行事のルートや踊る場所等の情報提供の充実	
	□キリスト教と乙女峠祭に関する関連文化財群【維新の中のキリスト教の歴史と文化】	○教会、神父館の保存・修理	○津和野町におけるキリスト教に関わる歴史文化の調査・研究と成果等の活用 ○巡礼の道の案内表示の整備・充実	
	□花まつりに関する関連文化財群【花まつりと仏教文化】	○関連寺院の保存・修理	○花まつりに関わる歴史文化の調査・研究と成果等の活用 ○花まつりのルートの紹介 ○花まつりに関わる情報提供や発信	
	□水源地と水路に関する関連文化財群【城下町の水文化】	○水路遺構の保存・活用 ○水路の維持管理 ○庭園や煎茶の文化の継承・活用	○歴史的な水路網の調査と再構築 ○森林の保全 ○河川環境の保全・整備 ○旧城下町における食文化の継承・活用	
■銅山とたたら場跡を中心とした関連文化財群【天領と鉱山と産業文化の遺産】		○銅山遺構の保存・整備・活用 ○たたら場跡の保存・整備・活用 ○歴史民俗資料館における銅山・たたら場に関する展示の充実 ○鉱山跡やたたら場跡の見学・体験の検討	○広域的な連携による鉱山やたたら場、産業文化に関する調査・研究と成果等の活用 ○たたら場跡の実態調査 ○鉱山と産業文化をめぐるネットワークづくり	
■堀氏の鉱山経営と地域の暮らしに関する関連文化財群【堀氏の鉱山経営と地域文化】		○旧堀氏庭園の保存・整備・活用 ○旧畑迫病院の保存・整備・活用 ○旧川園の保存・整備・活用 ○堀氏文書の保存・活用 ○晩越水力発電所跡の保存・活用 ○その他堀氏関係の文化財の保存・活用	○堀氏関係の歴史や文化財の調査・研究と成果等の活用 ○堀氏関係の文化財の探訪ネットワークづくり ○堀氏関係の文化財を通じた広域的なネットワークづくり ○地域活動団体との連携とまちづくり	

表1-3-2　関連文化財群における文化財の保存・活用の取組方向（３／３）

関連文化財群【名称】	個別的な取組の方向	群（つながり）づくりの方向	
■街道・舟運の遺産を中心とした関連文化財群【街道・舟運の文化と遺産】	○山陰道の調査・研究（把握）と保存・整備・活用 ○廿日市街道や奥筋往還などの調査・研究（把握）と保存・整備・活用 ○舟運に関わる文化財の調査・把握と保存・活用 ○山口線に関わる文化財の調査・研究と保存・活用	○街道・舟運に関する調査・研究と成果等の活用 ○街道を生かしたネットワークづくり ○舟運・川船の体験の検討 ○広域的な連携による山口線の活用	共通する事項（表末に記載）
■多彩な歴史的建造物を中心とした関連文化財群【建造物が語る歴史と文化】	○旧城下町における歴史的建造物の保存・活用（藩御殿や門の復元など） ○寺社建築の保存・活用の検討 ○農家・商家などの歴史的建造物の調査・研究と保存・活用の検討 ○石見瓦（赤瓦）の景観の継承・活用 ○石垣等の保存・整備・活用 ○伝統的建造物群保存地区の指定に向けた取組	○歴史的建造物に関わる調査・研究と成果等の活用 ○歴史的建造物と他の地域資源との連携による活用 ○歴史的建造物をめぐるネットワークづくり	
■多彩な農村文化を中心とした関連文化財群【山間に息づく農村文化】	○石見神楽の継承・活用 ○田植え囃子の継承・活用と棚田等の保全 ○社叢の保存 ○荒神森や信仰などの継承（森、祠、行事など） ○地芝居（木部地区）の継承・活用	○農村の食文化の調査・研究と継承・活用 ○和紙の生産と和紙に関わる物語・行事の伝承 ○農家建築の調査・研究と保存・活用	
■山と森に関する関連文化財群【森林文化と信仰】	○山や森林の保全・活用 ○山岳信仰やそれに関わる文化財の保存・継承 ○山や森の生業に関わる文化財（炭窯跡など）の保存・活用	○山や森に関わる自然遺産の調査・研究と成果等の活用 ○山や森の生業に関わる文化財の調査・研究とネットワーク的な活用	
■通史的な関連文化財群【縄文から現代に至るまでのたゆまない営み“連綿と続く津和野の歴史と文化”】	○縄文遺跡などの保存・活用：高田、大蔭地区における縄文の里（仮称）づくりの検討 ○その他、各関連文化財群（テーマ）における取組の推進	○主要な文化財によるテーマと時代をつなぐネットワークづくり	

共通する事項～群（つながり）づくりの方針～

○住民参加による継続的な文化財の調査
○住民参加による文化財の保存・活用の体制と人づくり
○住民参加による文化財の維持管理と活用
○サイン計画の策定（現状把握を含む）とサインのネットワーク的整備
○情報の提供と受発信の充実
○公開・活用施設等のネットワークづくり
○テーマ等による周辺地域（自治体）との連携や広域的なネットワークづくり
○文化財を生かした体験・学習機会の確保や催しなどの開催

第４章　歴史文化保存活用区域の設定と取組方向

第１節　歴史文化保存活用区域の設定

歴史文化保存活用区域は、関連文化財群や個々の文化財を核とし，それらと一体となって価値をなす周辺の環境を含めて、文化的な空間を創出するための計画区域として設定するものである。

津和野町は山間に位置し、個々の集落が単独で周辺環境とあいまって特徴ある文化的環境を形成しており、それぞれが街道や河川などを通じて相互に密接に関連しあっている。保存活用区域として設定するためには、核となる指定文化財（今後その価値を明らかにし、指定すべきものも含む）や、関連文化財の一部を含み、特長ある歴史文化の継承と文化財の保護・活用が図られることが必要となってくる。

こうしたことを踏まえ、津和野町においては、次のような基本的な考え方のもとに、歴史文化保存活用区域を設定する。

＜歴史文化保存活用区域の設定の基本的な考え方＞

①コンセプトに基づいていること（一貫性）

②文化財が相対的に集積していること（存在性）⇒指定文化財（国・県・町指定：今後指定を目指すものも含む）または関連文化財群の一部が含まれていること

③対象区域が津和野の歴史を語る上で地域特有の歴史文化を有し、指定文化財や関連文化財群と密接に関連して、一体として保護の対象となるべき文化財が多数存在すること（関連性）

④周辺環境を含め文化財を核とした文化的な環境づくりが可能であること（発展性）

表1-4-1　歴史文化保存活用区域の設定の基本的な考え方の意図すること

基本的な考え方	「基本的な考え方」と「一体となって価値をなす周辺環境」との関係
①コンセプトとその背景に基づいていること（一貫性）	○設定区域はコンセプト（山・野・街）と密接に関わり、歴史的背景を有しているもの。 ○文化財調査及びコンセプト等に基づいて設定した視点を基本とし、区域（広がり・周辺環境）が明確となるもの。
②文化財が相対的に集積していること（存在性）	○指定文化財が存在するか、または関連文化財群の一部を含み、それらが地域（歴史文化保存活用区域）の特性を表わすランドマーク（目印、象徴）となっていること。 ○核となる文化財または関連文化財群と近隣接する文化財が多数存在し、文化財の存在（集積、密度）から区域が設定できること。
③地域特有の歴史文化を有し、指定文化財や関連文化財群と密接に関連して、一体として保護の対象となるべき文化財が多数存在すること（関連性）	○核となる指定文化財、または今後指定を目指す文化財と密接に関連し、地域の特性を表す構成要素が多数存在するものであること。 ○その中には今後調査を進め、文化財指定を目指すべき文化財を有すること。
④周辺環境を含め文化財を核とした文化的な環境づくりが可能と考えられること（発展性）	○設定した区域において、地域の特性を表す個々の指定文化財やその他文化財、関連文化財群が、将来にわたって一体的・持続的に、整備を伴いながら保存・活用していくことができ、文化的な環境づくりにつながるものであること。

表1-4-2　歴史文化保存活用区域の設定（１／３）

領域（広がり）の視点（切り口）	区　域 【名称】	意義・役割	主な文化財 ★：核となるもの（指定・登録） ☆：指定等を目指すもの
○津和野城跡と旧城下町及びその周辺の一体的な区域の検討 ○路地や水路など、暮らしの空間文化を通じた区域の検討 ○城下町文化の視点から意義・役割や文化財の検討	●津和野城跡と旧城下町及びその周辺 ●小京都文化を取り上げる区域 【津和野城、城下町遺跡とその街並み】	全国に数例しかない近世山城である津和野城跡、山麓の居館跡や櫓、城下町の面影を伝える街並み、そして関連史跡群を中心に、周辺環境を含めて一体的に保存・活用していく。 また、小京都文化が色濃く残る区域において、その継承と活用を図る。 ※歴史まちづくり法（重点区域）の活用を意図	★津和野城跡 ★藩校養老館 ★多胡家表門 ★鷲原八幡宮 ★永明寺 ★弥栄神社（鷺舞） ★津和野町役場、郷土館 ★津和野カトリック教会 ★津和野踊り ★流鏑馬神事 ★山陰道（野坂峠越） ★亀井氏庭園 ☆ＪＲ山口線（ＳＬ運行） ☆高崎亀井家跡 ☆商家 ☆乙女峠と乙女峠まつり ・水路（取り水口）と水文化 ・煎茶文化 ・輪くぐり神事（着物文化） ・庭の文化 ・石州和紙の文化 ・石見瓦と建築様式 ・和菓子文化 ・伝統的食文化 ・大蔭遺跡（縄文） ・高田遺跡（縄文～中世） ・喜時雨遺跡（中世）
○旧堀氏庭園を中心とした区域の検討	●旧堀氏庭園とその周辺 【旧堀氏庭園と関連遺産】	津和野の経済的基盤と産業文化を今に伝える旧堀氏庭園と関連遺産を、周辺環境を含めて一体的に保存・活用していく。 ※歴史まちづくり法（重点区域）の活用を意図	★旧堀氏庭園（主屋、枯山水庭園、楽山荘、和楽園、畑迫病院、畑ヶ迫銀銅山等） ☆墓所 ☆旧川園 ・顕彰碑 ・城ノ腰、外輪、出丸 ・西光寺 ・ホタル　など
○笹ヶ谷銅山を中心とした区域の検討	●笹ヶ谷銅山一帯 【天領の繁栄と歴史を伝える鉱山遺跡】	中世から採掘され、江戸時代には天領として、地域経済や幕府の財政を支えた鉱山や関連遺構などを、一体的に保存・活用していく。	☆笹ヶ谷銅山跡（坑道、製錬所跡） ☆中木屋城跡 など
○津和野における築城と思想の始まりを知ることのできる区域の検討	●木部の集落を中心とした区域 【吉見氏の入部と津和野の思想の発祥の地】	吉見氏が津和野に入った最初の拠点であり、その関連遺跡群や津和野における神道の発祥の地である地域を、一体的に保存・活用していく。	★岡熊臣旧宅 ★木蘭遺跡（吉見氏居館跡及び関連遺跡群） ☆福羽美静生誕地 ☆御嶽城跡、徳永城跡 ☆冨長八幡宮 ・銅山の馬車道 ・塩の道　など

表1-4-2　歴史文化保存活用区域の設定（２／３）

領域（広がり）の視点（切り口）	区　域 【名称】	意義・役割	主な文化財 ★：核となるもの（指定・登録） ☆：指定等を目指すもの
○青野山と一体となった文化的景観による区域の検討 ○棚田を中心とした文化的景観と暮らしの文化を通じた区域の検討	●麓耕・直地の棚田と集落 【青野山周辺の農村景観】	青野山の溶岩の上に形づくられた棚田や石州瓦の集落、暮らしの文化や自然、そして青野山を借景とする特徴的な景観を、一体的に保存・活用していく。	☆棚田景観と集落（麓耕・直地地区：赤瓦、農村集落） ・津和野川 ・清水（湧水） ・麓耕村五神社 ・地倉沼（モリアオガエル） ・地倉権現祭 ・風穴（蚕養蚕） ・噴火跡（麓耕崩れ）
○青野山と一体となった文化的景観による区域の検討 ○田園と暮らしの文化を通じた区域の検討	●笹山の田園と集落 【青野山周辺の石見瓦の集落景観】	青野山の麓に形成された田園と石州瓦の集落、暮らしの文化や自然、そして青野山と一体となった特徴的な景観を、保存・活用していく。	☆田園景観と集落（笹山地区：赤瓦、農村集落） ・廿日市街道（参勤交代） ・風穴（養蚕） ・日参様 ・笹山水源地（湧水） ・南谷発電所跡　など
○青野山を中心に一体の区域として捉えることも検討	【青野山一帯の自然と農と暮らしの文化】	上記の２つの区域と青野山を、一体的に保存・活用していく。	☆青野山 ・山王権現　など





青野山と麓耕の集落と津和野川





青野山と笹山の集落

表1-4-2　歴史文化保存活用区域の設定（３／３）

領域（広がり）の視点（切り口）	区　域【名称】	意義・役割	主な文化財 ★：核となるもの（指定・登録） ☆：指定等を目指すもの
○高津川や源流域（横道川）の自然と暮らしに関わる文化圏の検討	●豊かな森林と清流が息づき、平家伝説の伝わる左鐙の集落やたたら場跡を中心とした区域【森と清流と平家伝説の文化圏】	豊かな自然とともに暮らしてきた人々の足跡と文化を、森や清流や伝説などと一体となった圏域として保存・活用していく。	★瀧谷たたら跡 ★下森酒造場 ★左鐙八幡宮社叢 ☆たたら場 ・水力発電所跡 ・茶屋跡　　・神楽 ・ブナの原生林 ・ホタル　など
○日原の街並み等の再評価と一体的な区域の検討	●日原及び枕瀬の街並みを中心とした区域【天領と川が育んだ街並み景観】	かつて鉱山で賑わい、天領であった地域の歴史文化、そして高津川と緑にとけ込む石州瓦の街並みを、周辺環境を含めて一体的に保存・活用していく。	★藤井家住宅 ★枕瀬代官所跡 ☆水津家住宅ほか ☆歴史民俗資料館（資料等） ・赤瓦の街並み（日原天文台からの景観など） ☆高津川と周辺の文化的景観 ☆日原銅山跡 ・奴道中　など
○天然記念物やそれを取り巻く文化的景観による区域の検討	●大元神社跡のクスノキを中心とした区域【県下一の大木を中心とした農村景観】	大元神社跡のクスノキをシンボルとした農村景観を守るとともに、それと一体的に存在する文化財を保存・活用していく。	★大元神社跡の樟（クスノキ） ★三渡八幡宮（本殿、社叢） ★下瀬山城跡 ★社地脇古墳跡 ・集落（田園） ・歯の地蔵様、耳の地蔵様 ・薬師堂（目の神様） ・カブトエビ　など
○街道と舟運の結節点における歴史的な区域の検討	●青原・柳村の集落を中心とした区域【街道と舟運が交わる交易・交流遺産】	山陰道と高津川の舟運の結節点として、交易・交流で栄えた歴史文化と集落を、周辺環境を含めて一体的に保存・活用していく。	★青原八幡宮（社叢） ★青原代官所跡 ★山陰道（徳城峠越） ・渡し跡 ★柳神楽と神楽面 ☆網代 ☆原田家（たたら）墓所 ☆奴道中 ・尾中山城跡、大嶽城跡 など
○河川（高津川）と景観・生活文化をつなぐ区域の検討	●高津川とその周辺【高津川の恵みと文化的景観】	日本一の清流である高津川とその恵みである生業や暮らしの文化、そして景観を、川を軸として一体的に保存・活用していく。また、上流の吉賀町、下流の益田市と連携した取組を進める。	☆高津川の文化的景観（安蔵寺山と大ミズナラ、雄滝、雌滝、たたら跡、棚田、ワサビ田、漁（アユ、カニ、ウナギ）、渓流魚（ゴギ、ヤマメ）平家伝説、厳島神社、水力発電所跡など）



高津川



横道川

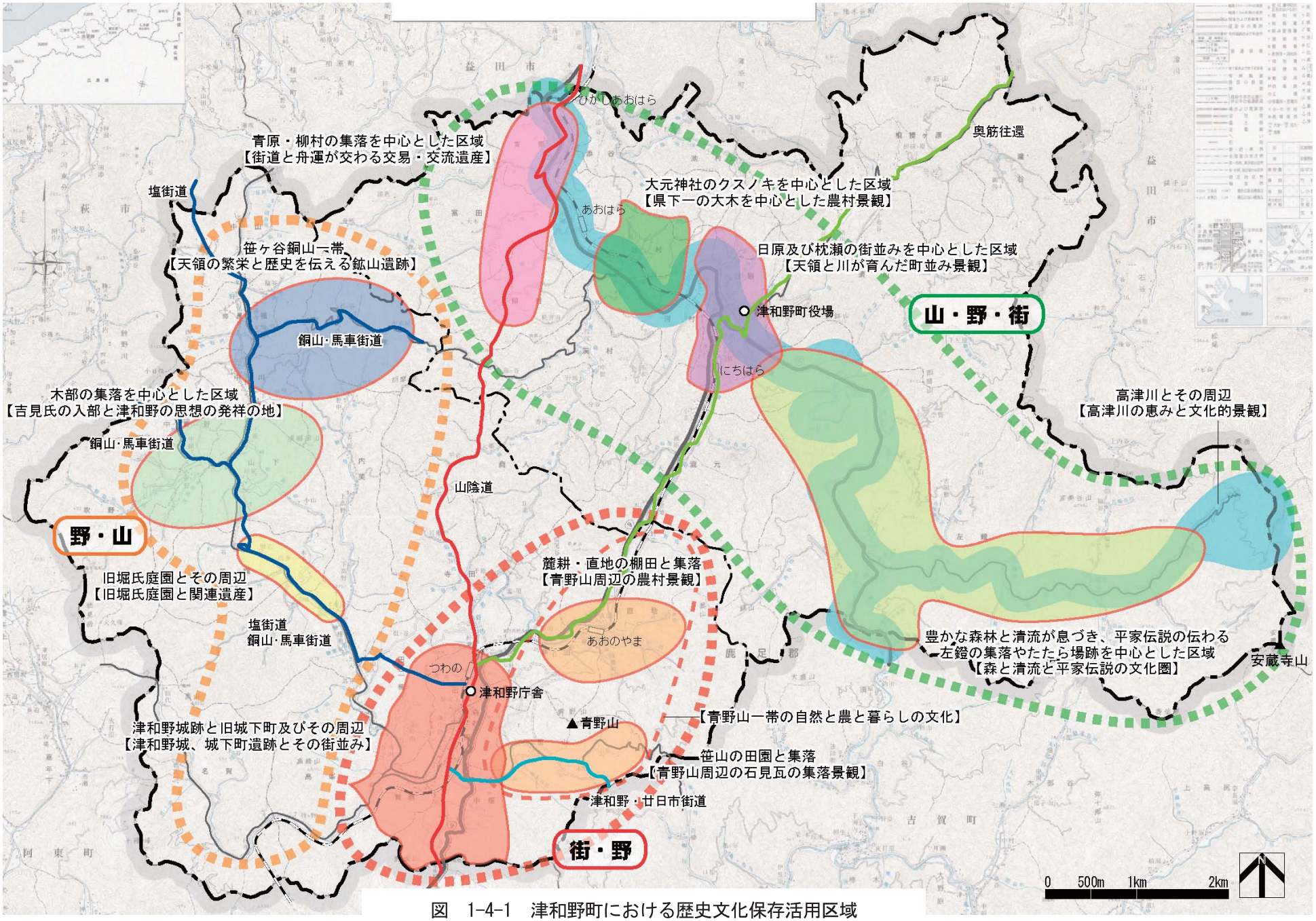


図　1-4-1　津和野町における歴史文化保存活用区域

第２節　歴史文化保存活用区域における取組方向

歴史文化保存活用区域の形成（区域づくり）について、津和野町における文化財の保存・活用の基本理念などを踏まえながら、取組方向を明らかにする。

表1-4-3　歴史文化保存活用区域における主な取組方向～文化財の保存・活用～（１／２）

歴史文化保存活用区域【名称】	文化財の保存・活用の取組方向
津和野城跡と旧城下町及びその周辺 【津和野城、城下町遺跡とその街並み】	■津和野城跡の保存・活用 ■藩御殿・門の復元・活用 ■藩校養老館の修理・復元と活用 ■森鷗外旧宅と森鷗外記念館の活用 ■西周旧居の活用と西周記念館構想の検討 ■城下町史跡群の保存・活用 ■城下町遺跡（地下遺構）の保存・活用 ■山陰道の保存・整備・活用 ■津和野・廿日市街道、奥筋往還の保存・整備・活用 ■石見瓦と歴史的建造物と街並みの保存・活用 ・歴史的建造物と街並みの保存・活用 ・（重要）伝統的建造物群保存地区の指定に向けた取組 ■町家の庭園と煎茶文化の保存・継承・活用 ■城下町の民俗文化財の継承・活用 ・鷺舞　・津和野踊　・乙女峠祭　・その他民俗芸能・行事 ■棚田の保存・活用（中座地区など） ■旧城下町周辺地区における遺跡（縄文～中世）の保存・活用 ・縄文の里（仮称）づくりの検討（高田、大蔭地区） ・石見瓦の窯跡の調査と復元の検討 ■景観保全と新津和野百景づくり ■その他、関連文化財群【近世城下町の史跡と文化】における取組の展開 ・歴史まちづくり法の活用に向けた取組（歴史的風致維持向上計画の策定） ・旧城下町及びその周辺地区における景観形成　など
旧堀氏庭園とその周辺 【旧堀氏庭園と関連遺産】	■旧堀氏庭園の保存・整備・活用 ■旧畑迫病院の保存・整備・活用 ■旧川園の保存・整備・活用 ■畑迫銀銅山跡等の保存・活用 ■清流とホタルの里づくり ■銅山・馬車街道の保存・活用 ■民俗芸能の調査と活動支援 ■景観保全と新津和野百景づくり ■歴史まちづくり法の活用（歴史的風致維持向上計画の策定）を検討
笹ヶ谷銅山一帯 【天領の繁栄と歴史を伝える鉱山遺跡】	■銅山跡及び関連遺構などの調査 ■鉱山施設跡等の整備（安全対策等） ■アクセス及び昔の道の確保 ■銅山資料室等の検討 ■堀氏関係の古文書等の調査 ■鉱山に関わる広域的な連携（石見銀山遺跡など） ■笹ヶ谷銅山に関する情報提供及び学習・体験機会の確保 ■景観保全と新津和野百景づくり
木部の集落を中心とした区域 【吉見氏の入部と津和野の思想の発祥の地】	■吉見氏関連遺跡の保存・活用 ■中世山城跡の保存・活用 ■国学者の旧宅・生誕地の保存・活用 ■銅山・馬車街道、塩街道の保存・活用 ■中曽野の地芝居等地域芸能の継承・活用 ■景観保全と新津和野百景づくり

表1-4-3　歴史文化保存活用区域における主な取組方向～文化財の保存・活用～（２／２）

歴史文化保存活用区域【名称】	文化財の保存・活用の取組方向
麓耕・直地の棚田と集落【青野山周辺の農村景観】	■棚田の保存・活用 ■石見瓦の家並みの保存・継承 ■地倉沼一帯の自然環境の保全・活用 ■民俗芸能の継承・活用
笹山の田園と集落【青野山周辺の石見瓦の集落景観】	■石見瓦の家並みの保存・継承 ■津和野・廿日市街道の保存・整備・活用 ■水源地の保存・継承 ■風穴の調査と保存・活用 ■神事、民俗芸能の保存・継承
【青野山一帯の自然と農と暮らしの文化】	■田園風景の保存・継承 ■青野山の自然環境の保全 ■湧水・名水の水の環境の保全 ■青野山の信仰の継承 ■景観保全と新津和野百景づくり ■歴史まちづくり法の活用（歴史的風致維持向上計画の策定）を検討
豊かな森林と清流が息づき、平家伝説の伝わる左鐙の集落やたたら場跡を中心とした区域【森と清流と平家伝説の文化圏】	■たたら場跡の調査・研究とその成果等の活用 ■たたら場跡の保存・整備・活用 ■森林の保全・活用 ■左鐙八幡宮社叢の保存・活用 ■歴史的建造物の保存・活用 ■水力発電所跡の保存・活用 ■平家伝説に関わる地名等の継承 ■民俗芸能の継承・活用
日原及び枕瀬の街並みを中心とした区域【天領と川が育んだ街並み景観】	■歴史的建造物の調査と保存・活用 ■天領関係の遺跡等の調査と保存・活用（銅山跡、代官所跡など） ■川と一体となった石見瓦の家並み（景観）の保存・活用 ■石見神楽、奴道中など民俗芸能の継承・活用 ■歴史民俗資料館の充実・活用
大元神社のクスノキを中心とした区域【県下一の大木を中心とした農村景観】	■大元神社の樟（クスノキ）の保存・活用 ■田園景観の保全・活用 ■三渡八幡宮（本殿、社叢）等の保存・活用・ネットワーク化 ■下瀬山城跡の保存・活用 ■社地脇古墳跡の調査と保存・活用 ■天然記念物の保存・継承（カブトエビなど） ■民俗芸能の継承・活用
青原・柳村の集落を中心とした区域【街道と舟運が交わる交易・交流遺産】	■山陰道（徳城峠越）の保存・活用 ■原田家に関わる文化財の調査と保存・活用 ■青原八幡宮社叢の保存・活用 ■柳神楽、奴行列、網代など民俗芸能の継承・活用
高津川とその周辺【高津川の恵みと文化的景観】	■川に関わる生業や生活文化・食文化の継承・活用 ■舟運に関わる文化財の調査と保存・活用 ■農村景観（棚田、ワサビ田）の保全・活用 ■民俗芸能の継承・活用 ■高津川の文化的景観について近隣市町との連携 ■景観保全と新津和野百景づくり

共通する事項	■住民参加による継続的な文化財の調査 ■住民参加による文化財の保存・活用の体制と人づくり ■住民参加による文化財の維持管理と活用 ■サイン計画の策定（現状把握を含む）とサインのネットワーク的整備 ■情報の提供と受発信の充実： ■公開・活用施設等のネットワークづくり ■テーマ等による周辺地域（自治体）との連携や広域的なネットワークづくり ■文化財を生かした体験・学習機会の確保と催しなどの開催

第５章　地域ぐるみで取り組む文化財の保存・活用と展開方向

第１節　文化財の保存・活用の枠組み

前述の基本理念や取組方向などを踏まえ、津和野町における文化財の保存・活用の展開方向（大枠・フレーム）を以下のように設定する。

なお、文化財の保存・活用の方策に関する取組内容や具体化の手順などについては、「津和野町歴史文化保存活用計画」で明らかにする。

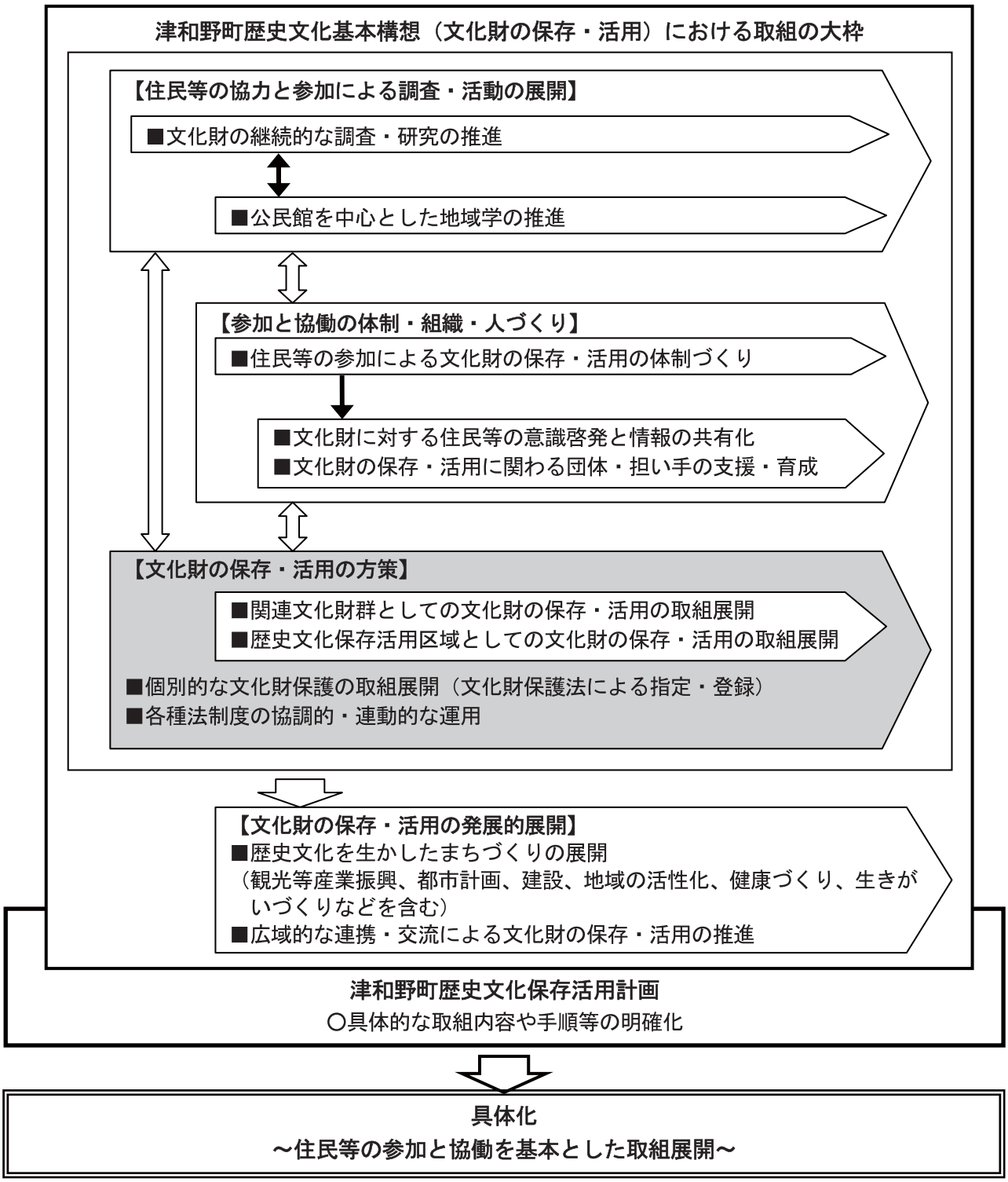


図1-5-1　津和野町の文化財の保存・活用に関する展開方向（大枠）

第２節　参加と協働の体制・組織・人づくり

１　住民等の参加による保存・活用の体制づくり

庁内において、文化財部門、観光部門、建設部門、総務部門、農林部門等から構成する「歴史文化基本構想推進チーム（仮称）」の設置を検討するなど、庁内の連携体制を強化する。

本モデル事業において設置した歴史文化基本構想等策定委員会及び運営委員会を、それぞれの特色・性格を踏まえながら、前者を「歴史文化基本構想等推進委員会（仮称）」、後者を「歴史文化のまちづくり委員会（仮称）」として継承・発展させ、構想推進の役割を担うようにする。また、新たな参加者・団体も適宜、受け入れていく。

津和野町教育委員会が事務局を担い、行政と上記の２つの委員会及びその他担い手・団体などによる推進母体を構築し、協働による取組を進めていく。

さらに、連絡・調整、協議・発案、さらには連携した行動などを行う場として、「歴史文化基本構想等推進合同委員会（仮称）」を設置する。

地区レベルにおいては、公民館を拠点とした歴史文化に関わる取組を推進するとともに、地域学※やまちづくりへとつながることを目指す。そのための公民館の態勢や人材育成に努める。

２　文化財に対する住民等の意識啓発と情報の共有化

文化財の保存・活用の基礎的な条件として、住民の文化財に対する意識啓発を図る。また、文化財に関わる学習・体験機会の確保を図るとともに、情報を分かりやすく伝え、情報の共有化に努める。

さらに、観光客など津和野町を訪れた人々に対しても、文化財の魅力と合わせて、文化財保護などに関わる意識啓発を図る。

３　文化財の保存・活用に関わる団体・担い手の支援・育成

地域における文化財の維持管理、調査、点検・モニタリングなどを行う組織・団体の育成に取り組むとともに、民俗芸能などの担い手の確保・育成に努める。

歴史文化を生かしたまちづくりに関する情報提供や学習機会の確保などを通じて、地域におけるまちづくりへの取組を促進する。

前述の「歴史文化のまちづくり委員会（仮称）」については、本構想の推進のための地域における行動委員会と位置づけ、文化財の調査、維持・管理の支援、活用、普及・啓発活動などが行える組織として育成する。

※　地域学
自分たちが住む地域の自然、歴史、人、事象などを、学術的なことも取り入れながら学び、一人ひとりが郷土観を確立し、地域活性化や地域づくりへの動機づけを図っていくもの。

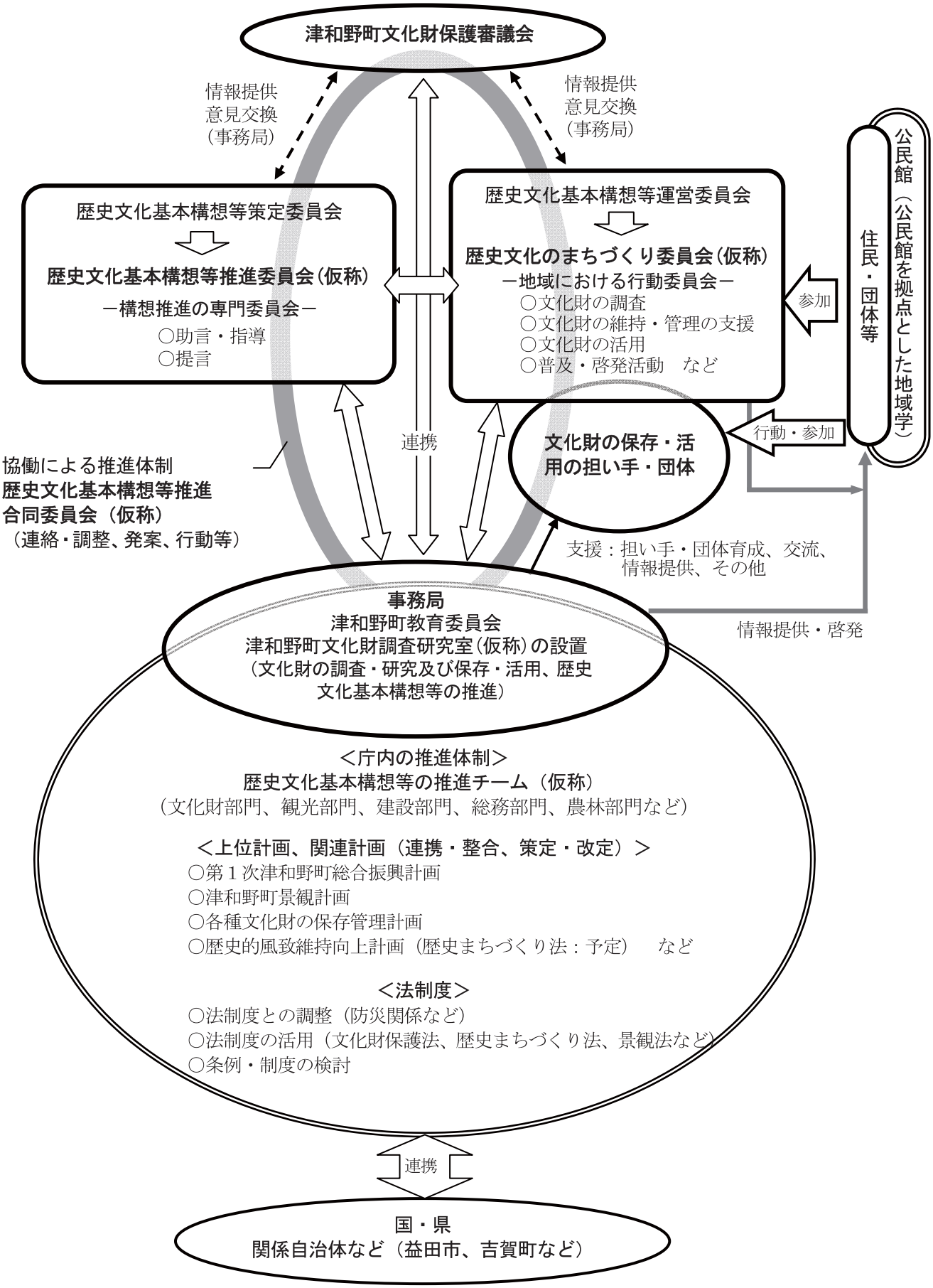


図1-5-2　文化財の保存・活用の体制案（構想の推進）

第３節　住民等の協力と参加による調査・活動の展開

１　文化財の継続的な調査・研究の推進

地元調査員等による文化財の調査の体制や実績、経験を踏まえ、今後においても調査体制を充実・強化しながら、文化財の調査を継続的に実施する。

また、文化財の調査と合わせて、専門家等の協力体制を強化しながら、津和野町の文化財の研究を進める。

こうした文化財の調査や研究のプロセス、成果などを、適切かつ分かりやすく、そして広く情報提供していく。

２　公民館を中心とした地域学の推進

本モデル事業では、全公民館での住民参加によるワークショップと補足聞き取りを行い、地域の宝となる文化財の再発見（調査で取り上げた文化財の確認、新たな文化財の抽出など）を行うとともに、新津和野百景につながる景観の検討を行った。ワークショップでは、地域の高齢者の方々から、様々な歴史文化に関わることを引き出すことができたが、これを若い世代に引き継ぐことが課題であることも分かった。

こうした取組は、文化財の総合的把握のみならず、文化財を通じて“地域学”へと発展し、住民一人ひとりが主体的に学び、交流し、知恵や労力を出し合いながら、協働による地域づくりが展開される可能性を持っていると考える。

このため、歴史文化などを生かしながら、地域における文化的な活動を支える場である公民館を拠点として、“地域学”が育っていくよう取り組んでいく。




公民館におけるワークショップ

第４節　文化財の保存・活用の方策

１　関連文化財群としての文化財の保存・活用

関連文化財群とは、有形・無形、指定・未指定を問わず、地域に存在する様々な文化財を、歴史的、地域的関連性等に基づいて、一定のまとまりとして設定するものであり、文化財及び歴史文化の価値と特色を示すものでもある。

本構想では、８つの個別的なテーマ（広義の関連文化財群）及び１つの通史的なテーマをもとに、関連文化財群を設定しており、これらを切り口として、文化財の調査・研究と価値の把握を進めながら、保全・活用に取り組む。

その中では、生涯学習や観光振興などとの連携に努めるとともに、歴史文化を生かしたまちづくりを進める。

２　歴史文化保存活用区域としての文化財の保存・活用

歴史文化保存活用区域とは、関連文化財群や個々の文化財を核とし，それらと一体となって価値をなす周辺の環境を含めて、文化的な空間を創出するための計画区域として設定するものである。

本構想では、11の歴史文化保存活用区域を設定している。それらは、旧城下町などからなるエリア（街・野）、笹ヶ谷銅山や木部、畑迫を中心としたエリア（野・山）、高津川を軸としたエリア（山・野）に大きく分けられるとともに、共有するする内容を持ち、街道などで相互につながる。

こうしたことを踏まえ、歴史文化保存活用区域における文化財の保存・活用や区域相互のネットワーク化、さらには歴史文化を生かしたまちづくりを進める。

３　個別的な文化財保護の取組展開

文化財の調査・研究の成果などによって、一定水準以上の価値が把握できたものについては、関係権利者の同意状況や維持管理の体制等を勘案しながら、文化財保護法などに基づき、文化財の指定または登録に努める。

なお、文化的景観については、前述の関連文化財群や歴史文化保存活用区域の観点を踏まえながら検討する。また、高津川を軸とした文化的景観については、流域の益田市、吉賀町と連携した取組を進める。

４　各種法制度の協調的・連動的な運用

本構想は、従来の文化財保護行政の枠を超える形で、観光、建設、都市計画、農林、情報などの部門の参加・連携のもとに策定を行った。

本構想の推進にあたっては、こうした経験と実績を生かしながら、庁内の協力・連携体制のもとに、文化財保護法や景観法、都市計画法、歴史まちづくり法など関係する法制度を協調的・連動的に運用しながら、効果的に取り組んでいく。

第５節　文化財の保存・活用の発展的展開

１　歴史文化を生かしたまちづくりの展開

文化財そのものを対象とした保存・活用から、関連文化財群や歴史文化保存活用区域の観点などを取り入れながら、歴史文化を生かしたまちづくりへと発展させていく。

その方策としては、文化財保護行政と歴史的風致の維持・向上を目的とした歴史まちづくり法との連携を図ることが有効であり、歴史まちづくり法に基づく歴史的風致維持向上計画の策定を図り、国による認定を目指す。

また、公民館を拠点とした地域学の推進、文化財行政と観光等の産業振興や学校教育、都市計画、建設部門などとの連携強化、地域ぐるみでの景観づくりの促進などに取り組む。

２　広域的な連携・交流による文化財の保存・活用の推進

津和野町の文化財の中には、広域的な関係や広がりを有するものが多数ある。

そのうち、清流高津川は、源流域から河口まで、周辺の自然環境や集落、農地などと一体的な文化的景観を形づくっており、流域の益田市や吉賀町と連携しながら、文化的景観などの保存・活用に取り組む。

また、地域の発展と暮らしを支えてきた山口線は、鉄橋などの近代化遺産が今も生きており、沿線の市町の連携によって、近代化遺産の保存・活用や観光振興などに努める。

さらに、鉱山や人材など津和野に関わる文書・史料、史跡などは、町外にも存在しており、広域的な連携によってこうした資料の調査・研究を進める。

この他、山城跡や街道、民俗芸能などを生かした広域的な交流など、地域の魅力づくりや振興について検討する。



高津川と朝霧